

クラレCSRレポート 2016

Corporate Social
Responsibility Report 2016

株式会社 クラレ

東京本社 〒100-8115 東京都千代田区大手町 1-1-3 (大手センタービル)
大阪本社 〒530-8611 大阪市北区角田町 8-1 (梅田阪急ビル オフィスタワー)
代 表 TEL:03-6701-1000 FAX:03-6701-1005

<http://www.kuraray.co.jp/>



レスポンシブル・ケア



環境への配慮



この用紙は、責任ある管理をされている森林からの木材を使用しています。



VOC (揮発性有機化合物) 成分フリーのインキを使用しています。



印刷時に、VOC (揮発性有機化合物) などを含む湿し水が不要となる水なし印刷を採用しています。

見やすさへの配慮



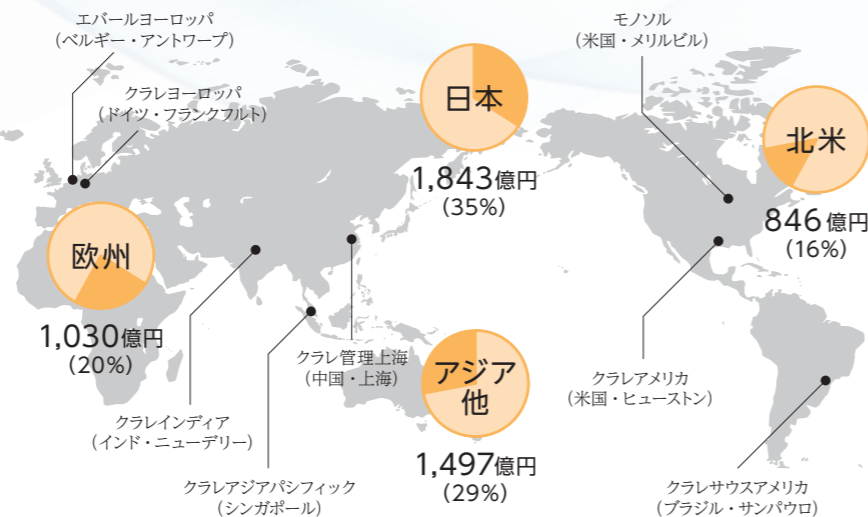
ユニバーサルデザイン (UD) の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

クラレグループの概要

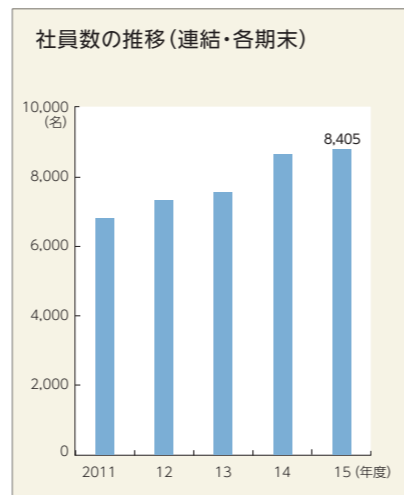
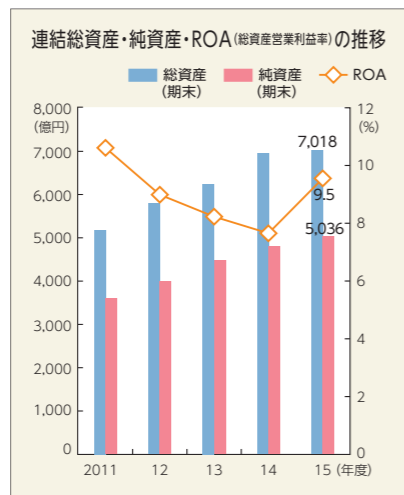
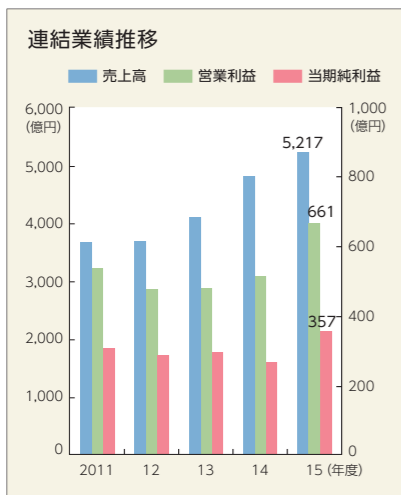
会社概要

社名 株式会社クラレ
 代表取締役社長 伊藤 正明
 設立 1926年6月
 資本金 890億円(2015年12月末現在)
 社員数(連結) 8,405名(2015年12月末現在)
 本社 東京・大阪
 事業所・研究所 倉敷・西条・岡山・新潟・鹿島・つくば
 グループ会社 連結子会社36社・持分法適用会社1社(2015年12月末時点)
 主要海外拠点 米国、ドイツ、ベルギー、中国、シンガポール、インド、ブラジル

地域別事業展開(事業規模・主要海外拠点)



経済性情報



編集方針

本報告書は、すべてのステークホルダーにクラレグループのCSR活動をご理解いただくことを目的とし、クラレグループが2015年度に取り組んだ活動をお伝えしています。

対象期間

2015年度(2015年1月1日~2015年12月31日)

対象範囲

安全・環境面:(株)クラレと国内関係会社を中心に、一部海外関係会社を含む
 社会面:(株)クラレを中心に、各テーマで取り組み状況に応じて関係会社の一部を含む
 経済面:(株)クラレと連結対象子会社および持分法適用会社(計38社)

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン(第4版)」の中核に準拠
 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

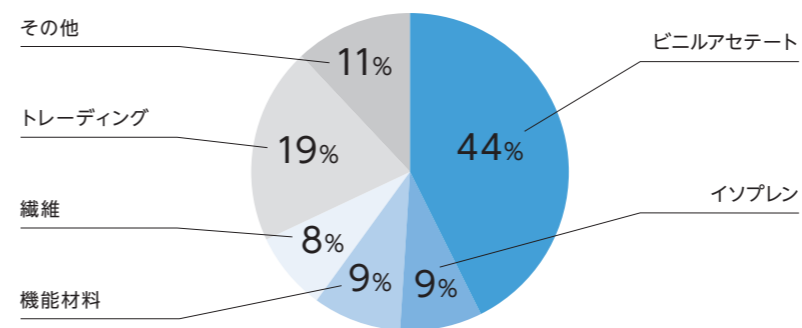
発行日

2016年5月(前回発行日2015年9月、次回は2017年5月予定)

事業概要

クラレは1926年に化学繊維レーヨンの企業化を目的として岡山県倉敷市に誕生しました。戦後、国産技術による合成繊維ビニロンを世界に先駆けて工業化して以来、その独自技術を生かし、スペシャリティ化学メーカーとして、数多くのオンリーワン製品、ナンバーワン製品を世の中に送り出しています。

連結事業別売上構成(2015年度)*



*売上高には「外部顧客への売上高」及び「セグメント間の内部売上高または振替高」が含まれています。調整費1,105億円は含まれていません。

ビニルアセテート 2,747億円

水溶性や接着性などの特性を持つポリアル樹脂、液晶ディスプレイ用途の他、洗剤などの個包装フィルムに使われるポリアルフィルム、高いガスバリア性を誇る(エパール)、合わせガラス用中間膜として使用されるPVBフィルムを製造・販売しています。

インソプレン 550億円

世界唯一の合成法によるインソプレンケミカル製品群と、その派生品である熱可塑性エラストマー(セプトン)や高耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)を製造・販売しています。

機能材料 569億円

天然皮革の精緻な構造と機能性を兼ね備えた人工皮革(クラリーノ)、天然歯に近い修復を可能にする歯科材料、優れた透明性、耐久性を持つメタアクリル樹脂などを製造・販売しています。

繊維 463億円

アスベスト代替材としても使用されるビニロン繊維、面ファスナー(マジックテープ)、生活関連用品や工業用品として使用される不織布(クラフレックス)、ポリエステル繊維を製造・販売しています。

トレーディング 1,196億円

ポリエステル長繊維をはじめとする繊維製品、樹脂・化学品の輸出入や卸売を行っています。

その他 696億円

炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造と販売やエンジニアリング事業の他、フレキシブル回路基板等に使用される液晶ポリマーフィルム(ベクスター)などを取扱っています。

本報告書の中の()で示すものはクラレグループの商標です。

クラレグループ

連結対象 36社/持分法 1社(クラレ含めて38社)

国内

- (株)クラレ ●▲
- クラレエンジニアリング(株) ●▲
- クラレケミカル(株) ●▲
- クラレトレーディング(株) ●▲
- クラレプラスチック(株) ●▲
- クラレリビング(株) ●▲
- クラレテクノ(株) ●▲
- (株)テクノソフト ●▲
- クラレトラベル・サービス(株) ●▲
- クラレ西条(株) ●▲
- クラレクラフレックス(株) ●▲
- クラレファスニング(株) ●▲
- クラレ玉島(株) ●▲
- (株)入間カントリー倶楽部 ●▲
- (株)岡山臨港 ●▲
- クラレリタケデンタル(株) ●▲
- (株)倉敷国際ホテル ●▲
- クラレアクア(株) ●▲
- 岡山臨港倉庫運輸(株) ●▲
- クラレ岡山スピンズ(株) ●▲
- MonoSol AF, Ltd. ◆
- Kuraray Europe GmbH ◆
- EVAL Europe N.V. ◆
- OOO TROSIFOL ◆
- Kuraray Asia Pacific Pte. Ltd. ◆
- Kuraray Korea Ltd. ◆
- 可樂麗国際貿易(上海)有限公司 ◆
- 可樂麗貿易(上海)有限公司 ◆
- 可樂麗管理(上海)有限公司 ◆
- 可樂麗香港有限公司 ◆
- Plantic Technologies Limited ◆
- Plantic Tribond Pty Ltd. ◆
- Plantic Technologies(UK) Ltd. ◆
- Plantic Technologies(Germany) GmbH ◆

●クラレサイト ■国内関係会社 ▲国内クラレグループ ◆海外関係会社

Contents

クラレグループの概要 2

- 会社概要
- 地域別事業展開
- 経済性情報
- 編集方針
- 事業概要
- クラレグループ

Top commitment 4

クラレグループのCSR 6

- 企業ステートメント
- クラレグループ行動規範
- CSRコンセプト
- ステークホルダーとのコミュニケーション
- バリューチェーンに沿ったステークホルダーへの責任ある配慮
- 独自性の高い技術で社会課題解決に挑戦
- クラレグループのマテリアリティ特定
- クラレグループ マテリアリティマップ
- クラレグループのCSR活動目標とマテリアリティ

安全への取り組み 12

CSR-Highlight >>>

- 理念・方針・指針
- 保安防災・労働安全への取り組み
- 安全マネジメント
- 保安防災
- 労働安全
- 物流安全
- 製品安全

環境への取り組み 16

CSR-Highlight >>>

- 環境マネジメント
- 地球温暖化防止
- 化学物質の排出管理
- 廃棄物の有効利用
- 水資源の有効利用
- 事業活動のマテリアルフロー

地域・社会とともに
 職場での取り組み 22

CSR-Highlight >>>

- 人材への基本的な考え方
- 働きやすい職場環境への取り組み

地域・社会とともに
 社会との取り組み 26

CSR-Highlight >>>

- 社会貢献活動
- CSR調達

CSRマネジメント 30

- コーポレート・ガバナンス
- CSR推進体制
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 品質マネジメント

素材技術の独創性を生かし、 地球と社会のイノベーションに貢献する



トップ対談

伊藤正明 × 江上剛

クラレの原点を探る ～思想あるものづくり企業～

江上: 私は以前、クラレに関する本を書かせていただきましたが、御社を知って実感したのは、思想、理念のある会社だということです。創業者大原孫三郎さん、2代目大原總一郎さんは数々の名言を残され、それが現在もしっかりとクラレに残っています。

伊藤: そうですね。創業から積み上げてきた歴代の言葉や思想をいまの自分たちに照らして生かそうと、昨年、企業ステートメントを私たちの使命、信条(理念、行動原則)、誓約として再編し、国内外のグループのメンバーに浸透を図っています。

江上: クラレは創立時に「二三のマーク」の社章を制定していますね。これは、たとえトップ企業となっても傲慢になって社会との関係性を見失ってはいけないことを表しており、その意味でも企業の社会的責任

を重んじる会社といえるのではないかと思います。

伊藤: このマークは、とかく物事は一番になると慢心を生じ、心が緩んでしまうから、いつも一番に迫ろうとする希望に満ちた二、三番の気持ちで努力すべきことを意味し、私どもの立ち位置をよく表したものです。いま、社長という立場に立って、あらためてこの意味するところをありがたく感じています。

江上: 伊藤さんご自身の原点は生産現場かどうかっています。

伊藤: 昭和55年の入社後、最初に配属されたのが工場でした。そこで感じたのは、壊れた機械は直せばいいが、人間は壊れたら直せるものではない、血の通った人間というのは非常に大事にしなければいけないということです。そして、私は「厳しいけれども、温かく」をモットーに、仕事には厳しくとも、人に対しては温かい心で最大限の配慮をして一緒に歩んでいくことの大切

さを学びました。

江上: 大原總一郎さんも工場がすべての起点だとおっしゃっていますね。「産業の新階段を創設して、国家社会に奉仕すること」、そして、イノベーションのない経済成長は真の成長ではない、常に新しい創意工夫の努力をしようと。

伊藤: メーカーは、ものをつくるだけでなく、付加価値をつけるのが仕事です。価格は営業力にも依存して年によって違いはあるものの、基本的には市場が技術を評価した結果です。それに対していかに工場が工夫して効率を上げるか。つまり、毎日の利益はものづくりの現場が生んでいるのです。

働く仲間への責任 ～より良く生きる意義～

江上: 社員に対して「より良く生きる」とおっしゃっていますが、社長のメッセージとしてはめざらしくユニークな印象をもち

ました。

伊藤: 私はメンバーに「何のためにクラレで働いているのか」を問います。一義的にはお金を稼ぐためですが、もっと高尚に言うると幸せになるために働いているのだと思います。会社はそのために、安全に、安心して働ける場所を提供する義務があります。そして、誇りと喜びをもって働ける会社になりたいのです。

江上: 家族、地域から「いい会社で働いているね」と言ってもらいたいですね。

伊藤: はい。例えばピニロン繊維は製造工程が長いので、一旦機械を止めると再稼働するのが非常に大変です。かつては機械を止めずにトラブルを修復しようとして事故が多く発生していましたが、私がピニロン生産部長に就いた時に、生産性を犠牲にしてもこのような危険な作業はやめようと呼びかけ一切禁止しました。幸せになるために働いている会社でケガをするようなことはあってはならないのです。

江上: たしかに。まず経営者が社員の安全を第一に考えた行動をしなければ、社員に「より良く生きる」と言っても伝わるものではないですね。

最大の強みは独自技術 ～世のため人のため、 他人のやれないことをやる～

江上: クラレは戦後の占領下にありながら、国産原料にこだわって技術革新を進めてきた歴史をおもちですね。当時の工場綱領には「新しい技術で国民の利益を生み出



代表取締役社長

伊藤 正明 Masaaki Ito

す」という社会貢献に対する企業の志が謳われています。

伊藤: 資源の少ない日本で、国産原料でまかなえるものを作る、これは起業家のロマンです。他から買えば安く、簡単にできる場合もあります。しかしクラレは、100年先を見据え、原料から自分でやらなければだめだと見抜いていました。そこに先見の明を感じます。

江上: 最近、M&Aに積極的ですが、それによってそのようなクラレのDNAが薄くなっていく懸念はないですか。

伊藤: いろいろな会社を買収しているように見えるかもしれませんが、当社のM&Aはポパールの独自技術が原点にあり、すべてポパールでつながっています。私はグループ入りした会社をまわって、社長や幹部に「クラレは技術の原点を大事にする会社だ」ということを理解してもらおうと繰り返し伝えていきます。その文化を根づかせていきたいのです。

江上: M&Aで増えた海外の会社の人たちに、クラレの理念をどのように伝えているのですか。例えば、理念の一つである「同心協力」は海外の人には理解しにくいと思いますが。

伊藤: 一昨年に仲間になった会社の場合には、最初の1年は自分たちのやり方クラレのやり方どどちらかいい方をとってくれと言ってきましたが、その後はよく議論してくれと言っています。議論することによって、お互いに高め合い一つになって上のステージに行くこと、すなわち「止揚」、ドイツ語では「アウフヘーベン(Aufheben)」することができると思っています。その過程が「同心協力」ではないでしょうか。

江上: クラレはかつてはもっと消費者に近かったように思いますが、最近は素材メーカーというイメージが強くなりましたね。その点はいかがですか。

伊藤: 当社の直接取引先は企業であることが多いのですが、その先にいる消費者を常に意識しています。これからの素材産業には、消費者に代表される世の中が必要とするものを作っていくことが求められています。先日、インドで「クラレの製品はどれも良いが、高くても良いものはいらぬ」と言われました。クラレ製品自体は高くてもそれを使えばトータルでコストが下がるメリットがあるんだっただけというのです。本当



江上 剛 Go Egami

作家、コメンテーター。1954年1月7日生まれ、兵庫県出身。1977年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、旧第一勧業銀行(現みずほ銀行)入行。梅田・芝支店、本部企画、人事関係(総括部、業務企画部、人事部、広報部、行内業務監査室)、高田馬場、築地各支店長を経て2003年3月退行。97年「第一勧銀総会屋事件」に遭遇し、広報部次長として収拾に尽力。その後のコンプライアンス体制に大きな役割を果たす。銀行員の傍ら、02年「非情銀行」で小説家デビュー。03年退行後、作家として本格的に活動。経済小説の枠にとらわれない新しい金融エンターテインメントを描いている。

のニーズとはそういうことで、これからのものづくりはそれを考えないといけません。

江上: 素材メーカーのクラレがイノベーションを起こすと、非常に広い範囲に影響が及ぶでしょう。例えば、クラレの活性炭でどんな水でも浄化できる素材を作ったら、とてつもなく多くの人を救うことができます。

伊藤: ニーズとシーズのバランスが大事なのです。私たちが独自素材であるピニロン繊維を持っていたから、アスベスト代替素材のニーズに応えることができ、ポパールフィルムを持っていたから、液晶パネル用偏光膜のニーズが出たときにぴたりとはまりました。逆に、ニーズばかりを追いかけるとは逃げ水を追いかける如く、なかなか追いつかないでしょう。

世界的に社会課題が山積する中で、ニーズとシーズを結びつけるアンテナを用意して、独自の素材技術を生かして他人のやれないことをやり、真に地球や社会のイノベーションに貢献していきたいと思います。

江上: それを期待しています。今日はクラレの思想や歴史を踏まえたお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

クラレグループのCSR

クラレは創業以来、事業活動を通じた社会との絆を大切に、よき企業市民としてその責任を全うすることを
 存続の前提と考えています。私たちが掲げる企業ステートメントは、クラレのCSRへの基本姿勢を表現したものです。

■ 企業ステートメント

私たちの使命

Our Mission | 私たちは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、
 自然環境と生活環境の向上に寄与します。
 一世のため人のため、他人のやれないことをやる—

私たちの信条

<p>Our Values Philosophy</p> <p>理念：個人の尊重 同心協力 価値の創造</p>	<p>Guiding Principles</p> <p>行動原則：安全はすべての礎 顧客のニーズが基本 現場での発想が基本</p>
--	--

私たちの誓約

Our Commitment | 私たちは、

- ・安全に配慮した高品質の商品・サービスを開発、提供します。
- ・社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
- ・地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
- ・働く仲間を敬い、その権利を尊重します。
- ・自由、公正、透明な取引を実践します。
- ・知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。

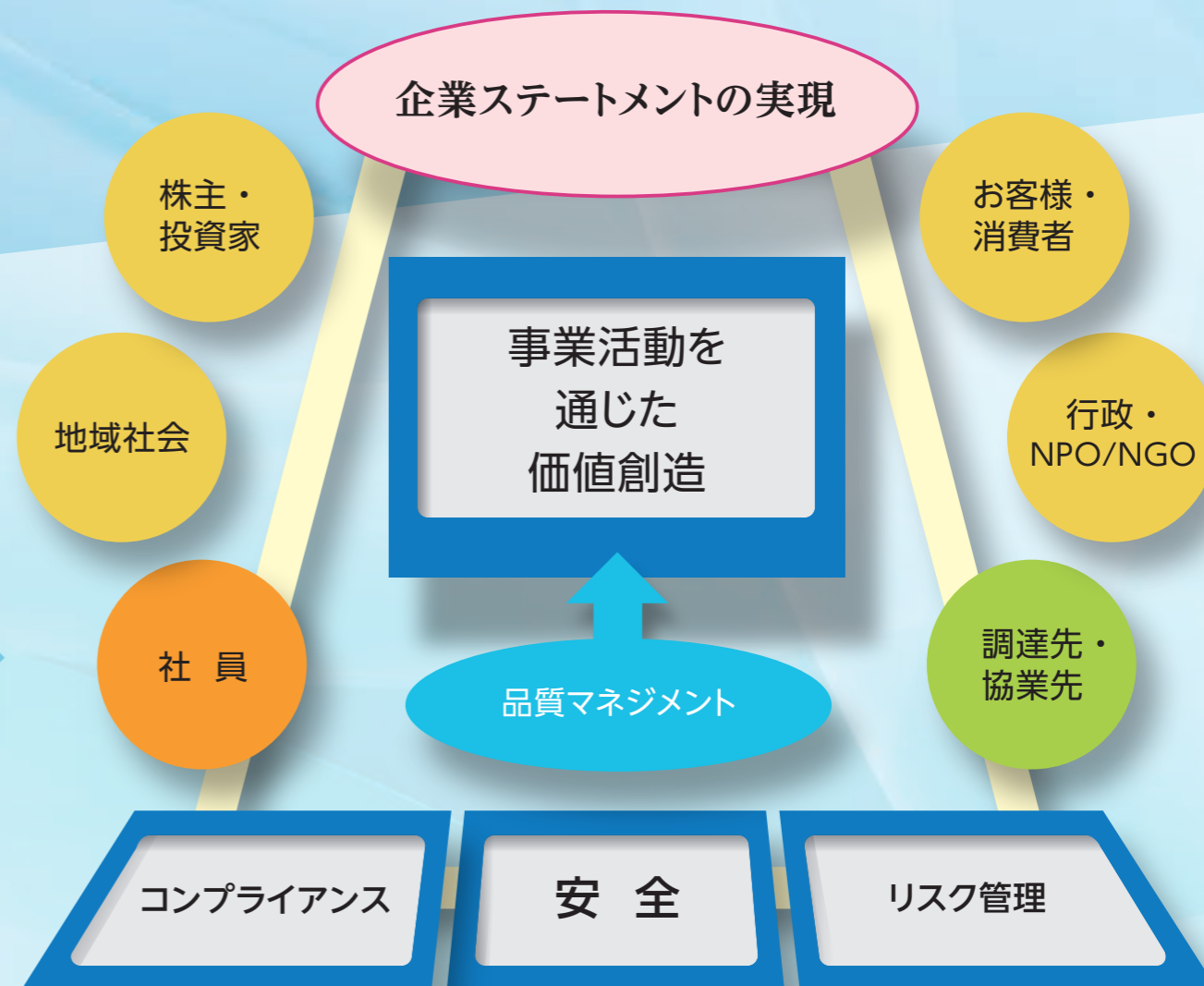
■ クラレグループ行動規範

<ul style="list-style-type: none"> ● 商品・サービスの安全性と品質 ● 会社情報の開示 ● 贈収賄の防止 / 献金・寄付の取扱い ● 反社会的勢力との関係拒絶 ● 社会貢献の推進 ● 環境保全の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保安・防災の徹底 ● 安全で働きやすい職場環境 ● 人権の尊重 ● 多様性と機会均等の尊重 ● 独占禁止法 / 競争法の遵守 ● 不正競争の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入関係法令等の遵守 ● 接待・贈答の制限 ● 利益相反行為の禁止 ● インサイダー取引の禁止 ● 機密情報の適切な管理 ● 知的財産の保護
---	---	--

『私たちの使命』は、クラレが社会において「何のために存在するのか」「何をもちて貢献するのか」を表明したものです。またクラレのメンバーが企業活動にのぞむ際に「何を信じ、何を大切に思うのか」を表明したものが『私たちの信条』です。ここには創業以来の基本精神が反映されています。一方、『私たちの誓約』は、ク

ラレが社会との多様な接点において、その期待に応え、責任を果たすための行動のあり方を表明したものです。『私たちの誓約』を具体的な企業活動について明確にしたものが『クラレグループ行動規範』であり、私たちのコンプライアンスの基本となっています。

■ CSRコンセプト



クラレは「ものづくり」に携わる企業グループとして、優れた製品・サービスを通じて経済的・社会的な価値を創造し、市場に提供しています。

クラレならではの独創的な技術を最大限に発揮し、事業を通じて省資源・省エネルギー、環境保全、生活の質向上などのグローバル社会の課題に解決策を提供していくことこそ、企業としての最も基本的な責任と考えています。こうした事業活動はコンプライアンス(法令、社会規範の遵守)、リスク管理、そして何よりも「安全」を礎として成り立っています。さらに「ものづくり」における品質マネジメントが価値創造を下支えしています。

一方、全ての企業活動はステークホルダー(株主・投資家、お客様・消費者、地域社会、行政・NPO/NGO)との関わりに支えられています。企業活動そのものに参画している社員、

調達先・協業先もまた重要なステークホルダーです。

クラレは、さまざまな機会を通じて、各ステークホルダーとの対話と協働を一層深め、事業活動を通じたCSRを目指していきます。

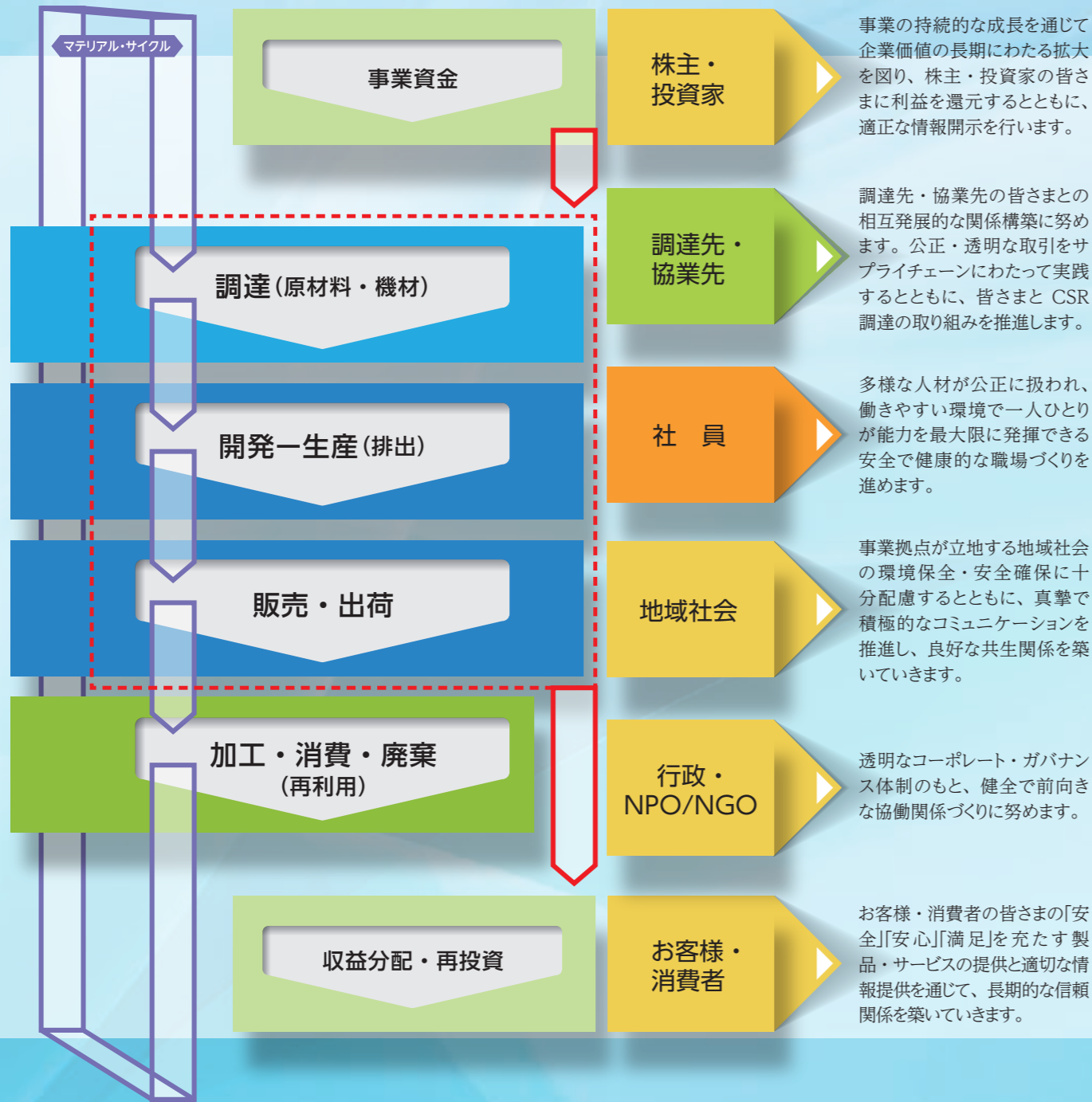
■ ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダー	コミュニケーション
株主・投資家	株主総会、事業所見学会、決算説明会
調達先・協業先	購買活動、安全協議会、連絡会等
社員	従業員意識調査、労使協議、人事評価面談
地域社会	レスポンスブル・ケア地域対話、地元自治会との意見交換会、工場見学会、青少年化学教室、観桜会/夏祭り等
行政・NPO/NGO	工場見学、消防訓練、ボランティア活動
お客様・消費者	営業活動、展示会(エコプロダクツ展など)、アンケート

クラレグループのCSR

クラレは、ものづくりを通じた価値創造活動の各プロセスにおいて、さまざまなステークホルダーと関わっています。私たちが持続的に企業活動を行うために、ステークホルダーへの責任ある配慮は必須条件と考えています。

■ バリューチェーンに沿ったステークホルダーへの責任ある配慮



クラレグループは、社会から借り受けた資源をもとに、より高い価値を付加した製品・サービスを提供することを事業としています。クラレが直接関わる活動—調達・開発・生産・販売・出荷—はもちろん、お客様へ販売・出荷して以降の加工・消費・廃棄・再利用に至るマテリアル・サイクル全体について、関係するステークホルダーへの影響に最大限配慮する

ことが、私たちがメーカーとして履行すべき責任です。

一方、事業運営に株主・投資家から預かった資金を投入し、得られた成果を配分するとともに、持続的な成長のための設備・研究開発に再投資し、さらには社員や社会貢献活動などに適切に還元することも重要な責務と考えています。

■ 独自性の高い技術で社会課題解決に挑戦



中期経営計画「GS-STEP」進捗



業績目標	15年度実績	17年度計画 (GS-STEP)
売上高	5,217 億円	6,500 億円
営業利益	661 億円	900 億円
営業利益率	12.7%	13.8%

クラレは水溶性の合成樹脂であるポパールの量産化技術を確認、ポパールを原料とした合成繊維ピニロンの工業化を世界で初めて実現しました。その過程で蓄積された研究成果はクラレの独自技術の基盤となり、オリジナリティ豊かな製品を次々に生み出す原動力となっています。

クラレは2015年度に新たな3ヵ年計画「GS-STEP」をスタートさせ、5つの経営戦略(1)コア事業の深耕(2)技術革新(3)次世代成長モデル(4)経営資源最適配置(5)環境へ

の貢献)を推進しています。15年度は、〈エパール〉や光学用ポパールフィルムの生産能力増強決定、ピニロン新プロセス技術開発、オーストラリアPlantic社買収、デュポン社から買収したピニルアセテート関連事業の統合などの施策を実施しました。

今後も「世のため人のため、他人(ひと)のやれないことをやる」という使命を果たすため、「GS-STEP」を着実に実行するとともに社会課題の解決に挑戦し続けていきます。

クラレグループのCSR

クラレグループでは、事業活動における社会からの要請が多様化する中、国際標準とされるガイドラインに準拠しつつ、重要度の高いCSR課題を明確にして取り組むため、2014年から重点課題(マテリアリティ)の特定を進めてきました。特定のプロセス、特定されたマテリアルな(重点を置くべき)項目及び今後のマネジメントについて掲載します。

■クラレグループのマテリアリティ特定

STEP1：項目の選定

まず、重要性や優先順位について検討の対象とする項目(アスペクト)の選定を行いました。国際標準であるGRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン(第4版)」(GRI<G4>)を指標に、ISO26000、RC(レスポンシブル・ケア)の要求事項を加味して課題70項目を選定しました。

STEP2：優先順位付け

選定した70項目についてバリューチェーン上での調達(原材料・機資材)、開発~生産(排出)、販売・出荷、加工・使用・廃棄(再利用)、その他(地域社会、行政)の各プロセスにおけるクラレグループとしての影響度をポイント化し評価。優先順位が高い約30項目を抽出しました。

同時に、外部ステークホルダー、金融関連調査機関、評価機関などから取り組みを期待されている項目について優先順位付けを行いました。

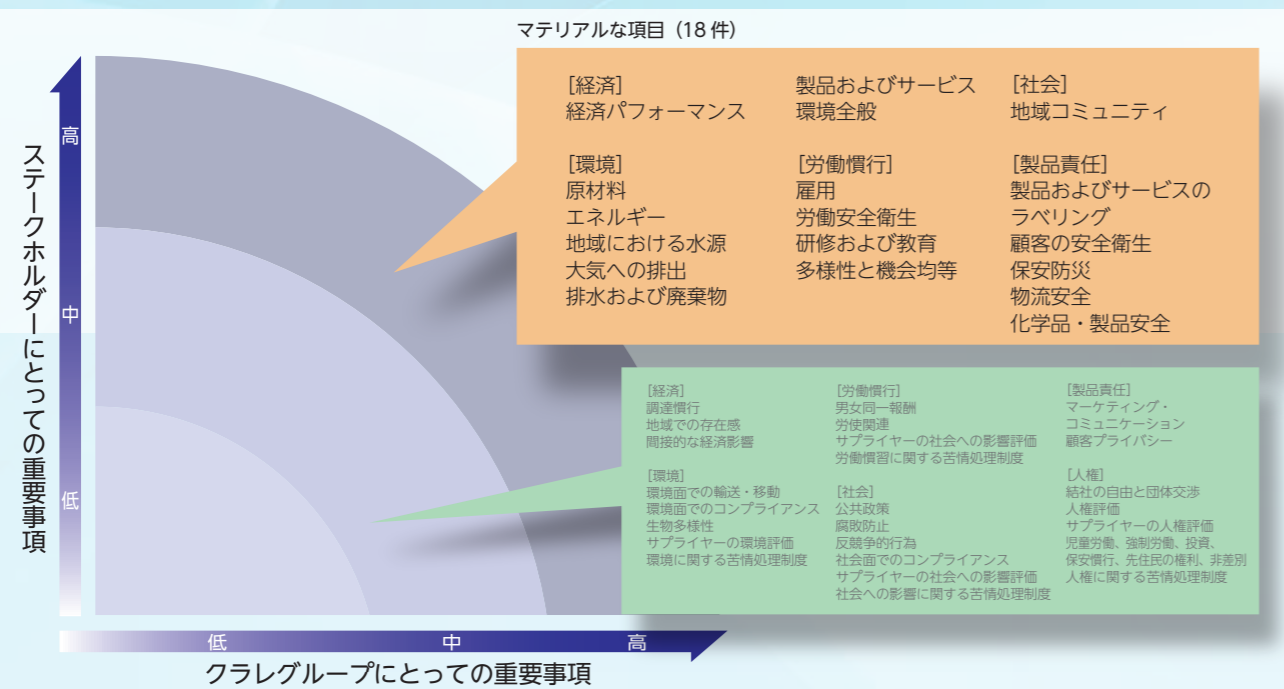
STEP3：特定

さらにクラレグループが重要と考える項目と外部ステークホルダーが重要としている項目を掛け合わせ、以下マップのとおり18のマテリアルな項目を特定しました。

特定した項目については、CSR委員会でも妥当性の確認を行い、関連する業務活動における課題・目標に反映させました。今後、マテリアルな項目へのアプローチを行っていきます。

また、定期的なレビューを行っていくことで、時代の変化に対応した項目の選定とマネジメントを実施してまいります。

■クラレグループ マテリアリティマップ



■クラレグループのCSR活動目標とマテリアリティ

活動項目	目標	マテリアルな項目(アスペクト)	バウンダリー※1	選定したアスペクトについて	参照先	
経営	中期経営計画	[GS-STEP](2015~2017) ・コア事業の深耕 ・技術革新 ・次世代成長モデルの構築 ・経営資源最適配置	◎	クラレグループは、中期経営計画「GS-STEP」を価値創造活動の羅針盤としています。技術革新や次世代成長事業の育成を通じて、多くのステークホルダーに価値を提供してまいります。	P9	
安全	保安防災	・保安事故防止対策 ・運転・技術の伝承(Know-Why)と確実な継続 ・網羅的なリスク把握と着実な対策の実施	◎	保安防災を重視し、製造工程、物流などにおいて安全管理を徹底しています。製品の安全に配慮することで顧客の安全を守ります。また、社員の安全意識の向上を通じ、災害のない職場環境を整備しています。万一の事故・災害に備えた訓練や、事例情報の共有による予防に努めています。	P13 ~ P15	
	労働安全	・個人の安全意識の向上 ・安全活動マネジメントのグローバル展開	○			
環境	地球温暖化防止	国内:温室効果ガス排出量 【環境効率】 2010年度対比 40%向上(2020年) 海外:エネルギー使用量 【環境効率】 2010年度対比 10%向上(2020年)	◎	低炭素社会の実現に向け、エネルギー使用量、LCAを踏まえたトータルなCO ₂ 排出量を削減できる商品・サービスの提供を行います。	P17 ~ P21	
	水資源の有効利用	海外:水使用量 【環境効率】 2010年度対比 10%向上(2020年)	○	世界的な水資源確保の重要性、取水源の地域社会への影響などに鑑み、操業地域での現状把握に基づき、必要な対策を講じます。		
	化学物質の排出管理	国内:日化協PRTR物質排出量 【環境効率】 2010年度対比 100%向上(2020年)	◎	PRTR物質の大気への排出による環境影響を踏まえ、原材料の変更、製造プロセスでの工夫を通じ排出量を削減しています。		
	廃棄物の有効利用	国内、海外:廃棄物発生量 【環境効率】 2010年度対比 10%向上(2020年)	○	原材料の有効利用、再生可能な原材料の選択、排水や原材料からの廃棄物の削減を果たし、循環型社会の実現に寄与します。		
	環境会計		環境全般	○		事業活動に伴う環境負荷低減、環境保護活動において、予防対策が可能な取り組みに対し、会計マネジメントシステムを導入してマネジメントを行います。
職場	働きがいを実感できる人事施策	社員に対する成長機会の提供	研修および教育	○	業務に必要な知識・スキルを獲得し、働きがいのあるキャリア形成をサポートするとともに、グローバルな成長機会を与える教育・研修を提供しています。	P23 ~ P25
	ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス	・女性活躍推進 ・働き方の向上 ・年休取得率の向上	多様性と機会均等雇用	○	多様な働き方、多様な雇用の実現を果たすことはもちろん、ワークライフバランスのとれた働きやすい職場環境を実現します。	
	心身の健康管理	メンタル対策、生活習慣病対策の継続・強化	労働安全衛生	○	社員の体調管理、メンタル対策など健康経営の広がりに対応しながら、労働安全衛生に配慮した職場づくりを果たします。	
社会	文化、学術、環境、福祉分野での貢献	下記活動の実行: ・「ランドセルは海を越えて」 ・「少年少女化学教室」 ・知的障がい者の作業施設運営 ・「クラレふれあい募金活動」 ・地域とのつながりに重きを置いた活動	地域コミュニティ	◎	文化、学術、環境、福祉を重点分野にクラレならではの地域貢献、人づくりの活動に寄与します。	P27 ~ P29

※1 ◎組織内外、○組織内
※2 kuraray.co.jp/csr/report2016/environmental/

～安心・安全な職場を作り上げるための積極的な取り組み～

事業所こだわり安全活動

それぞれの事業所、職場では、安心・安全な職場を作り上げるため、さまざまな安全活動を工夫して、積極的に取り組んでいます。

【チャレンジ100%活動】岡山事業所

作業前KY(危険予知)と指差呼称確認の100%実施を目指しています。



作業前KY

指差呼称

【リスクの低減、人の教育】鹿島事業所

第39回日化協「安全表彰最優秀賞」を受賞しました。



【安全体感教室】岡山事業所、新潟事業所

さまざまな「危険」を疑似体験しています。



ローラーへの巻き込まれ体感

安全帯ぶら下がり体感

感電体感

【無災害2000日達成】KEG-Moravia(チェコ)



【ベルパトロール】KP伊吹工場、KFS丸岡工場

ベルを鳴らしながら現場パトロールをしています。



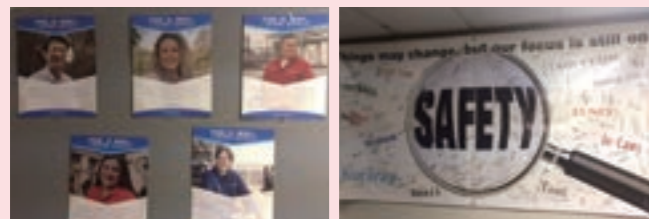
【事業所安全大会】西条事業所



即手出し厳禁の唱和

小集団安全活動発表会

【安全活動掲示板】KAI-LaPorte(米国)



【防災専門家による講演会】新潟事業所、KC鶴海工場



【チーム朝礼】倉敷事業所

相手を観る、相手の話を真剣に聞く、活きた朝礼をしています。



【KYT大会】岡山事業所、西条事業所 他

危険予知トレーニング(KYT)の事業所大会を開催しています。



安全への取り組み

理念・方針・指針

安全に関する行動原則

「安全はすべての礎」

安全に関する行動方針(2016年度)

「安全第一、生産(工事、開発)第二」を徹底すること
行動前に一呼吸おいて「確認」を行うこと
全員が本気で無事故・無災害を目指し、行動すること

製品安全に関する基本方針

安全で信頼できる製品の供給を通じて、顧客のニーズに応え、豊かでゆとりある社会の実現に貢献することを目指す。

保安防災・労働安全への取り組み

クラレグループでは、保安防災・労働安全リスクを発見し、その発生を未然に防ぐ安全マネジメントシステムを運用して、社員の安全意識の向上を通じ、安全で事故・災害のない職場づくりを推進しています。また、万が一、事故・災害が発生した場合に備え、被害を最小限に抑えるための訓練や事故の事例、教訓などの情報共有化による再発防止に努めています。

クラレグループでは、保安防災・労働安全リスクを発見し、その発生を未然に防ぐ安全マネジメントシステムを運用して、社員の安全意識の向上を通じ、安全で事故・災害のない職場づくりを推進しています。また、万が一、事故・災害が発生した場合に備え、被害を最小限に抑えるための訓練や事故の事例、教訓などの情報共有化による再発防止に努めています。

安全重点活動の目標と実績

評価 ○:達成 △:さらに取り組みが必要 ×:未達

項目	2015年度			2016年度 重点活動
	目標	実績	評価	
保安防災 労働安全	保安事故防止対策の推進	事故防止アクションの詳細条件設定、非定常時リスクアセスメントの推進、異常時対応能力向上	○	<ul style="list-style-type: none"> 保安管理レベルの向上 非定常時のリスクアセスメント推進
	運転・技術の伝承(Know-Why)と確実な継続	Know-Whyを盛り込んだキャリア開発計画(CDP)を活用した運転・技術の伝承統合教育システムの展開	○	<ul style="list-style-type: none"> 異常兆候検知と異常時対応能力向上 運転・技術の伝承(Know-Why)
	網羅的なリスク把握と着実な対策の実施	網羅性向上を目指したリスクアセスメント(RA)、重大リスクには本質安全化対策実施	○	<ul style="list-style-type: none"> 個人の安全意識の向上 ルールの周知と遵守
	個人の安全意識の向上	作業前KY(危険予知)、指差呼称活動、ルールの周知遵守、訓練を取り入れた安全教育	○	<ul style="list-style-type: none"> 網羅的なリスク把握 重大リスクには本質安全化対策実施
	安全活動マネジメントのグローバル展開	海外関係会社との交流活性化、グローバルデータベース構築、防災評価手法のグローバル展開	○	<ul style="list-style-type: none"> 安全活動マネジメントのグローバル展開に向けた基盤整備

数値目標と実績

項目	目標(国内外)	2015年度			評価	2016年度 目標(国内外)	
		国内	海外	国内外			
保安防災	事故件数	0件	3件	1件	4件	×	事故件数 国内外0件
労働安全	休業災害件数	0件	6件	17件	23件	×	休業災害件数 国内外0件
	全労働災害度数率	1.5以下	1.32	7.26	2.91	×	全労働災害度数率* 国内0.8以下 海外4.0以下

*全労働災害度数率:労働時間百万時間当たりの軽微以上の全労働災害発生件数。
なお、軽微以上の全労働災害とは軽微な医療処置以上の医療処置を要する災害。(米国OSHAのRecordable incidentを参考に設定)

安全マネジメント

クラレグループでは、「安全活動マネジメント規定」に基づき、年度ごとに計画を立てて保安防災・労働安全に取り組んでいます。具体的には、毎年社長および担当役員が出席する安全推進会議において、安全活動実績の総括評価を行うとともに、次年度の活動方針を定め、グループ全社に周知します。この方針に沿って各事業所・各部署で具体的な活動計画に反映させて活動を行っています。活動計画の立案状況、計画に基づく活動の状況お

よびその成果については、担当役員を含む本社安全スタッフが年2回各事業所を訪れて安全活動現場検証を行っています。



岡山事業所安全活動現場検証

保安防災

クラレグループでは、社会に対して甚大な影響を与える爆発、火災、有害物質の漏洩などの事故の未然防止を図り、事故発生時には被害を極小化することを重要な責任として考えています。そのため、保安防災に関するリスクアセスメントの推進、建築物・プラントの地震対策、設備の保安管理システムの整備などの保安防災活動に全ての事業所で取り組んでいます。

■産業保安のための取り組み

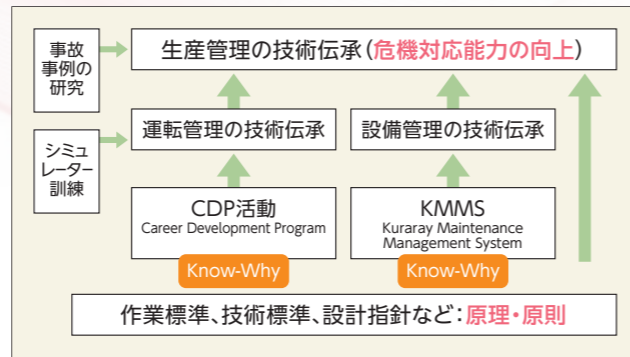
クラレグループは、石油化学工業協会の「産業保安に関する行動計画」に沿って、①リスクアセスメント、②事故情報の活用、③技術的背景 (Know-Why) の伝承、に関する取り組みを計画的に進め、自主保安活動を推進しています。

具体的には、リスクアセスメント活動の充実を図り、その有効性を高めるため、全停電や緊急停止などのような非定常時のリスクアセスメントの実施や、異常の判断基準の明確化などへ取り組んでいます。また、Know-Whyを盛り込んだ運転・技術の伝承を推進するため、CDP^{※1}活動やKMMS^{※2}に継続的に取り組んでいます。

2015年度には、残念ながら国内で3件の小火と海外で1件の漏洩事故が発生しましたが、外部への影響や人的被害はありませんでした。

2016年度以降も、引き続き以下の事項に取り組み、事故の防止に努めます。

- 非定常時のリスクアセスメント活動
- 異常の兆候検知および異常時対応能力の向上
- Know-Whyを盛り込んだ運転・技術の伝承

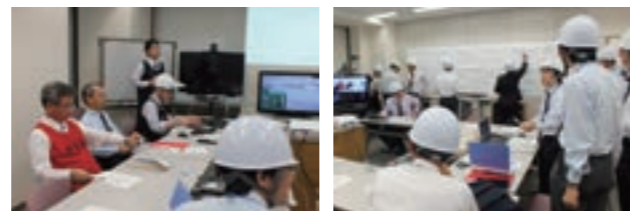


※1 CDP:現場の第一線作業員を対象に必要な知識・技能・技術と行動特性をレベル評価(見える化)し、全員の能力をマップ化した評価表を作成し、これに基づく、各人の目標を設定、教育を行う方式。

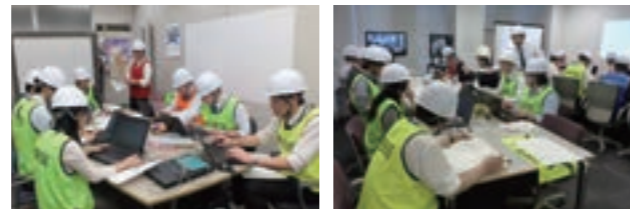
※2 KMMS:生産設備全般について個々の機器の重要度評価を行い、リスクに応じた設備管理方式を定めた上で、P;保全計画→D;保全活動の実施→C;活動結果の評価、保全計画の再評価→A;保全計画の見直しを行う設備管理システム。このシステムを回す中で、作業員が設備トラブルの原因分析や対策、設備管理規準の見直しなどに参画することで、人材育成・技術継承の強化を図っている。

【総合防災訓練】

クラレグループでは事業活動の中で大量の危険物や高圧ガスなどを扱っています。そのため、各事業所では防火設備の整備を行うとともに、さまざまな状況を想定し、公設消防と連携した防災訓練、通報訓練、津波避難訓練等を定期的実施しています。2015年度は、南海トラフ巨大地震により複数の事業所が同時被災することを想定し、社長を本部長とする本社の緊急対策本部訓練を実施しました。今回初めての取り組みとして、本社と5ヵ所の拠点をTV会議システム等で接続し、リアルタイムでの被災状況の把握を試みました。

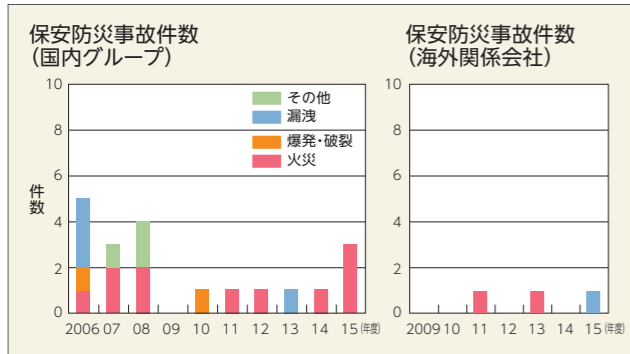


社長を本部長とする本社緊急対策本部の様子



東京現地本部の様子

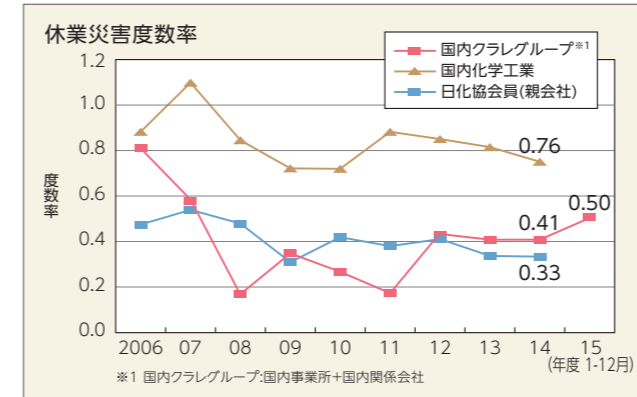
大阪現地本部の様子



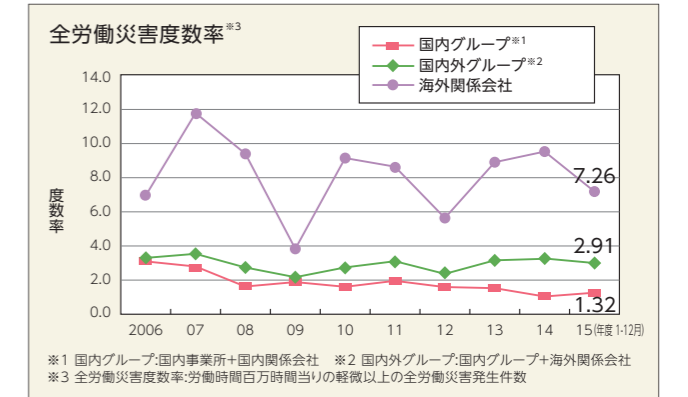
労働安全

クラレグループでは、社員の安全と健康の確保こそが企業活動の基本と認識し、労働安全マネジメントシステムの適切な運用を通じて、組織および社員一人ひとりの安全レベルの向上に努め、安全で災害のない職場を目指しています。2015年度は国内クラレグループの休業災害は昨年より1件増加し6件、度数率0.50でした。

一方、海外では休業災害判定基準が国によって異なるた



め、休業災害ではなく軽微以上の全労働災害度数率なる指標で評価しています。2015年度の海外は7.26で昨年9.82より良くなりました。一般的に欧米企業は重大事故防止に重点をおいて活動しており、軽症も含めた全労働災害度数率は日本より高い傾向にあります。2016年度は安全活動マネジメントのグローバル展開を図り、海外の全労働災害度数率低下を目指します。



物流安全

クラレは物流事故による社会的被害を防止するため、製品の輸送、保管面での物流安全確保の活動を継続して実施しています。

この活動の中心となるクラレ物流安全協議会は15年目

を迎え、2015年度は「危険物輸送事故の未然防止に関する物流会社の取り組み事例」を紹介し、その具体的施策の水平展開と意識の向上を図りました(危険物輸送委託会社9社参加)。

製品安全

クラレグループは企業ステートメント「私たちの誓約」の第一項に「私たちは、安全に配慮した高品質の商品・サービスを開発、提供します。」を掲げています。

全社的に安全性の検討を要する製品(体内摂取されるもの、ナノマテリアルを使用するものなど)に対しては、CSR本部を中心としたワーキンググループを組織し、製品の安全性を確認しています。2015年度はナノマテリアルの取り扱いに関する規定に基づき、該材料を取り扱う開発案件につき、作業員、環境、使用者に対する安全対策の審議を行い、適切な安全対策がとられるようにしました。

今後は、設計段階における製品の安全性検討の仕組みをより強化し、安全性の高い製品を供給し続けます。

■化学物質管理

クラレグループでは、ITシステムによる化学物質管理

を行っています。登録した原材料や製品等の化学物質情報と、法令・化学物質の安全性情報等の外部データベースを連携させることにより、関連する法令情報や危険有害性情報の取得やSDS等の作成ができる仕組みを整備しています。

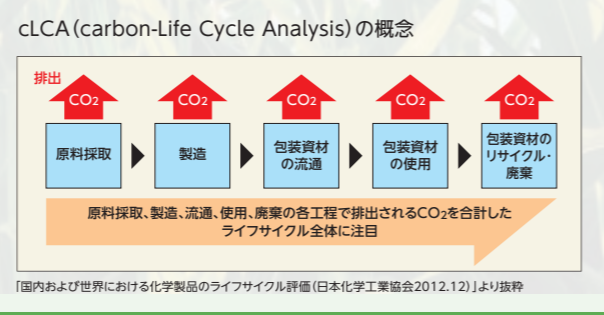
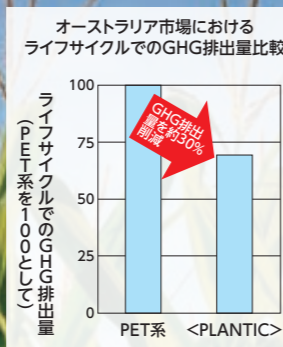
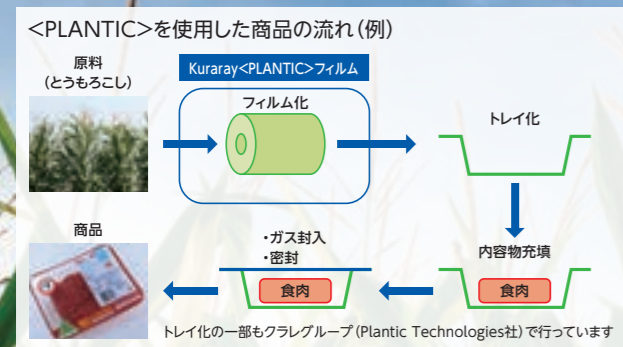
2015年度は、海外法令への対応をより強化するため、ITシステムにおける海外向けSDS作成機能の拡張を行いました。また、グループ全体で各国の法令情報を把握し確実な対応を行うため、国内グループ企業、各事業部に化学物質管理における責任者を設置し、責任者および実務者を対象に定期的な情報共有の機会を設けました。

今後は、海外グループ企業と化学物質管理に関する情報共有等の連携を進めることにより、化学物質管理体制の強化を行い、法令遵守の徹底とお客様に提供する製品情報の質向上に努めていきます。

～cLCA*により効果の数値化へ～

CO₂排出削減に貢献するクラレグループ製品、 バイオマス由来原料からできた ガスバリア包装材<PLANTIC>

*cLCA: carbon Life Cycle Analysis:カーボンライフサイクル評価



近年、食品包装材料のバイオマス化が求められるようになってきており、このニーズに合致するクラレ製品のひとつに<PLANTIC>があります。

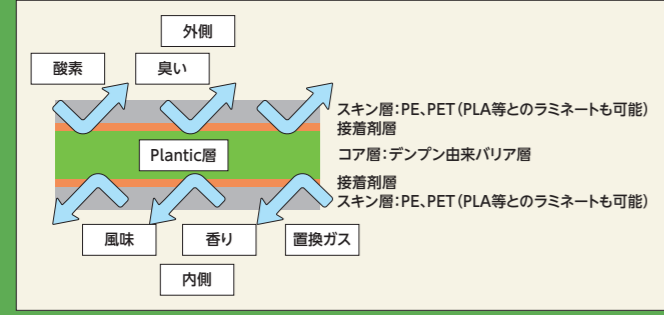
<PLANTIC>は、再生可能なバイオマス由来原料からできた食品包装用素材で、その優れたガスバリア性で食肉用途を中心に食品のバリア包装への採用が広がっています。バイオマス由来であるため、生育時にCO₂を吸収し、従来の石油由来のプラスチック製容器に比べライフサイクルにおいて温室効果ガス(GHG)の排出量

を大きく削減することができます。また、消費者が<PLANTIC>が使われている商品を選ぶことにより、GHG削減活動に参加することができます。<PLANTIC>はバイオマス原料であることについてDIN(ドイツ工業規格)、AIB-VINCOTTE社(ベルギーの認証機関)、日本有機資源協会の認証を取得しています。

<PLANTIC>はその高いガスバリア性で、惣菜などの日配品や食肉の消費期限延長に役立ち、オーストラリアでは既にも大手スーパーマーケットで食肉用のガス置換

包装トレイに採用されている他、欧州、米国での採用が始まっています。消費期限が延びることで近年グローバル規模での対策が強く求められている「フードロス*の削減」にも貢献できます。

食品包装分野の世界市場規模は非常に大きく、<PLANTIC>はGHG排出量削減のみならず、フードロスにも大きく貢献できるものと考えています。今後、オーストラリアに加え欧州、米国でのライフサイクルにおけるGHG排出量削減貢献についても調査を継続していきます。



*フードロス: 本来は食べられるのに規格外や賞味期限などのため廃棄されてしまう食品。世界では食料生産量の1/3に相当する年間13億トンに上るフードロスが発生しているといわれています。

環境への取り組み

クラレグループは「素材・中間材メーカーであるクラレの使命は、低炭素社会・低環境負荷社会構築に求められる製品に必須の素材・中間材を提供することによる貢献であり、その素材・中間材をできるだけ低い環境負荷で製造、提供することである。」と考え、地球温暖化対策の推進、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用などの環境保全活動に継続して取り組んでいます。

【ご注意】
会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。

- ・2013年度以前: 4月-3月の12ヵ月実績
- ・2014年度: 4月-12月の9ヵ月実績+2014年1月-3月実績(または推定値)(2013年度と重複しています)
- ・2015年度以降(参考): 1月-12月の12ヵ月実績

環境目標と実績 評価 ◎:計画を上回る ○:ほぼ計画通り △:さらに取り組みが必要

対象範囲	2015年度			評価	2016年度目標	環境中期目標 (2020年度達成目標)	評価
	目標	実績	評価				
地球温暖化防止	国内クラレグループ	【温室効果ガス排出量削減対策】 排出量削減対策20千トンの実施(対前年度比)	・削減対策実施量18千トン(対前年度比) ・環境効率(GHG排出量)2010年度対比9.4%向上	◎	20千トンの削減対策実施(対前年度比)	【環境効率(温室効果ガス排出量)】 2010年度対比 40%向上	△
	海外関係会社	【環境効率(エネルギー使用量)*】 2010年度対比 5%向上	・環境効率(エネルギー使用量)2010年度を100として99	△	環境効率 2010年度対比 6%向上	【環境効率(エネルギー使用量)】 2010年度対比 10%向上	△
化学物質の排出管理	国内クラレグループ	【日化協PRTR物質排出量管理】 2010年度排出量(1,104トン)の維持	・日化協PRTR物質排出量:1,010トン ・環境効率(PRTR排出量)2010年度対比 21.2%向上	◎	2010年度排出量(1,104トン)の維持	【環境効率(日化協PRTR物質排出量)】 2010年度対比 100%向上	△
廃棄物の有効利用	国内クラレグループ	【廃棄物の発生抑制対策】 2014年度発生量の1%相当分(811トン)の削減対策の実施	・削減対策実績:1,500トン以上 ・環境効率(廃棄物発生量)2010年度対比 6%減少	◎	2015年度発生量の1%相当分(832トン)の削減対策の実施	【環境効率(廃棄物発生量)】 2010年度対比 10%向上	△
	海外関係会社	【環境効率(廃棄物発生量)】 2010年度対比 5%向上	・環境効率(廃棄物発生量); 2010年度を100として71	△	環境効率 2010年度対比 6%向上	【環境効率(廃棄物発生量)】 2010年度対比 10%向上	△
水資源の有効利用	国内クラレグループ	—	—	—	国内グループの立地に鑑み、当面は水供給リスクにさらされる可能性は低く、現状の水使用量が継続された場合でも、直ちに環境に影響を及ぼす可能性は低いことから、当面数値目標は設定しない。		—
	海外関係会社	【環境効率(水使用量;海水除く)】 2010年度対比 5%向上	・環境効率(水使用量)2010年度を100として53	△	環境効率 2010年度対比 6%向上	【環境効率(水使用量)】 2010年度対比 10%向上	△

*海外関係会社は電力・蒸気のほとんどを外部購入しています。温室効果ガス排出量は供給元の影響(排出係数)を大きく受けることから、海外関係会社の環境保全活動を適正に評価するため、供給元の影響を受けない「エネルギー使用量」で評価することとしています。

環境マネジメント

■ 環境マネジメントシステム

クラレグループは「クラレグループ地球環境行動指針」「環境活動方針」を定めています。さらに「クラレ環境活動マネジメント規定」に基づき、各事業所・関係会社と本社間のP(計画)D(実行)C(チェック)A(アクション)サイクルを廻して継続的改善を図っています。

また、各事業所・関係会社においてISO14001の認証を取得し、各々のPDCAサイクルを廻して環境保全活動を進めています。

クラレグループ地球環境行動指針

基本方針

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて、次世代への責任を果たしていきます。この基本方針を実践するために、以下の活動を行います。

- 1 環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。
- 2 持続性のある地球環境改善活動を行う。
- 3 地球環境改善に貢献する技術、商品の開発を行う。

2015年度環境安全センター方針

環境マネジメントシステムに則った環境保全及び環境改善活動を推進し、法的要求事項を順守するとともに、環境中期目標達成に向けて環境負荷の継続的な改善に取り組む。

■環境中期目標とその見直し

クラレグループでは2010年度を基準年度、2020年度を目標年度とする「環境中期計画」を策定し、2011年度から活動に取り組んでいます。環境中期計画においては、「環境効率*」という指標を導入し、活動成果を数値評価できるようにしており、目標はP17の表の通りです。

しかし計画策定当時に比べ、海外におけるM&Aや増産対策の進展により事業環境は大きく変化していることから、環境効率は現場の環境保全活動が反映されにくくなってお

り、評価指標を見直す必要が出てきました。そのため、2016年中に評価指標を見直し、新たな目標を設定すべく作業を進めています。

※環境効率=売上高/環境負荷
環境負荷:GHG排出量、化学物質排出量、廃棄物発生量、等
製造工程でのGHG排出量等を削減した場合でも、事業活動が拡大すると排出量の絶対値は増加するため、削減努力が適正に評価されなくなります。そこで売上高と環境負荷を組み合わせた“如何に効率的に生産活動を行ったか”を評価する指標として「環境効率」を導入し、この環境効率を向上させていくことを目標として掲げています。

地球温暖化防止

国内グループではCO₂排出削減努力(バイオマス燃料の使用量拡大、廃プラスチックの燃料化、運転効率化、省エネ機器への更新、地道な省エネ活動(ムダ取り活動)等)により18千トン-CO₂を削減し、総排出量は1,265千トン-CO₂となりました。その結果、国内グループでの環境効率は2010年度を100として109と着実に進捗していますが、当初の目論見(2010年度を100として120)には届いていません。

一方、海外関係会社においても省エネ活動に取り組んでいますが、M&Aによる事業の拡大、生産量増などによりエネルギー消費量は2014年度に比べ増加し、443千KL(原油換算)となりました。その結果、海外における環境効率は2014年度以降、大きく低下し、2015年度は基準年の2010年度とほぼ同等(2010年度を100として99)となってしまいました。これはデュポン社からのビニルアセテート事業買収により中間体製造工程が増加したことによりエネルギー使用量が增大したためです。

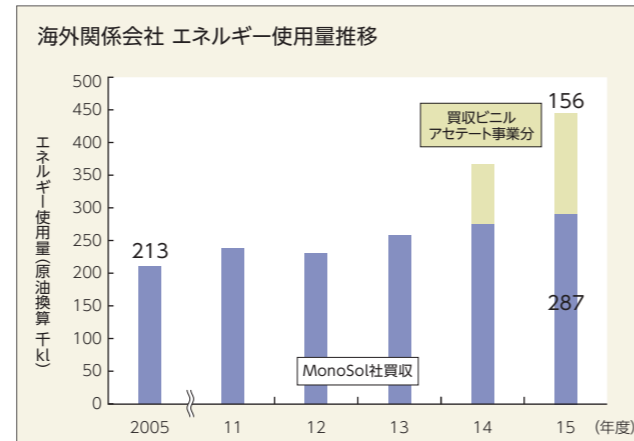
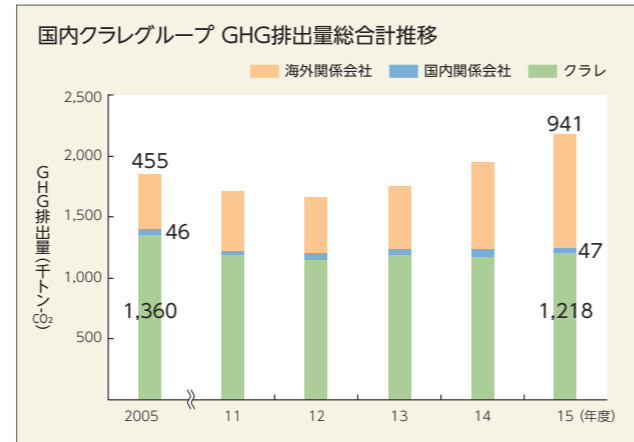
2015年度のGHG排出量実績、エネルギー使用量は次の通りでした。

国内グループ合計	1,265千トン-CO ₂ (2014年度 1,239千トン-CO ₂)
海外関係会社	443千KL-原油換算 (2014年 360千KL-原油換算)

■バイオマス燃料発電

クラレでは倉敷事業所(玉島)で石炭の代替燃料としてバイオマス燃料*(建築廃材等の木材チップ)を導入し、逐次投入量を拡大してきました。2015年は、引き続き供給元の拡大等に取り組み、2014年度とほぼ同等の55千トン程度のバイオマス燃料を投入したことにより、およそ82千トン-CO₂の排出量削減に貢献しました。

※自らが成長する過程で大気中のCO₂を吸収しているため、燃焼させた際に発生するCO₂は差し引きゼロと考えることができます。



■製品輸送時の環境負荷低減

クラレでは事業所等での製品製造時に自らが排出する温室効果ガス(GHG)の他に、製品をユーザーへ輸送する際の物流段階での環境負荷の低減にも取り組んでいます。トラック輸送から貨物列車、船などへ輸送手段を転換する“モーダルシフト”に継続して取り組み、2010年度以降、徐々に輸送時のGHG排出量、窒素酸化物は減少しています。

2015年度は2014年度対比でGHG、窒素酸化物ともほぼ同等の排出量となりました。

■Scope3 GHG排出量

GHGプロトコル*ではGHG排出量をScope1、2、3の3つに区分しています。

このうちScope1、2は事業者が自主的に算定し国に報告することが法で義務付けられており、クラレでも国に報告

- ・Scope1: 直接排出量 … 事業所等で燃料などを燃焼させることで発生するGHG排出量
- ・Scope2: 間接排出量 … 購入電力などの購入エネルギーに伴うGHG排出量
- ・Scope3: その他の間接排出量 … サプライチェーン全体(原料から製品廃棄まで)におけるGHG排出量

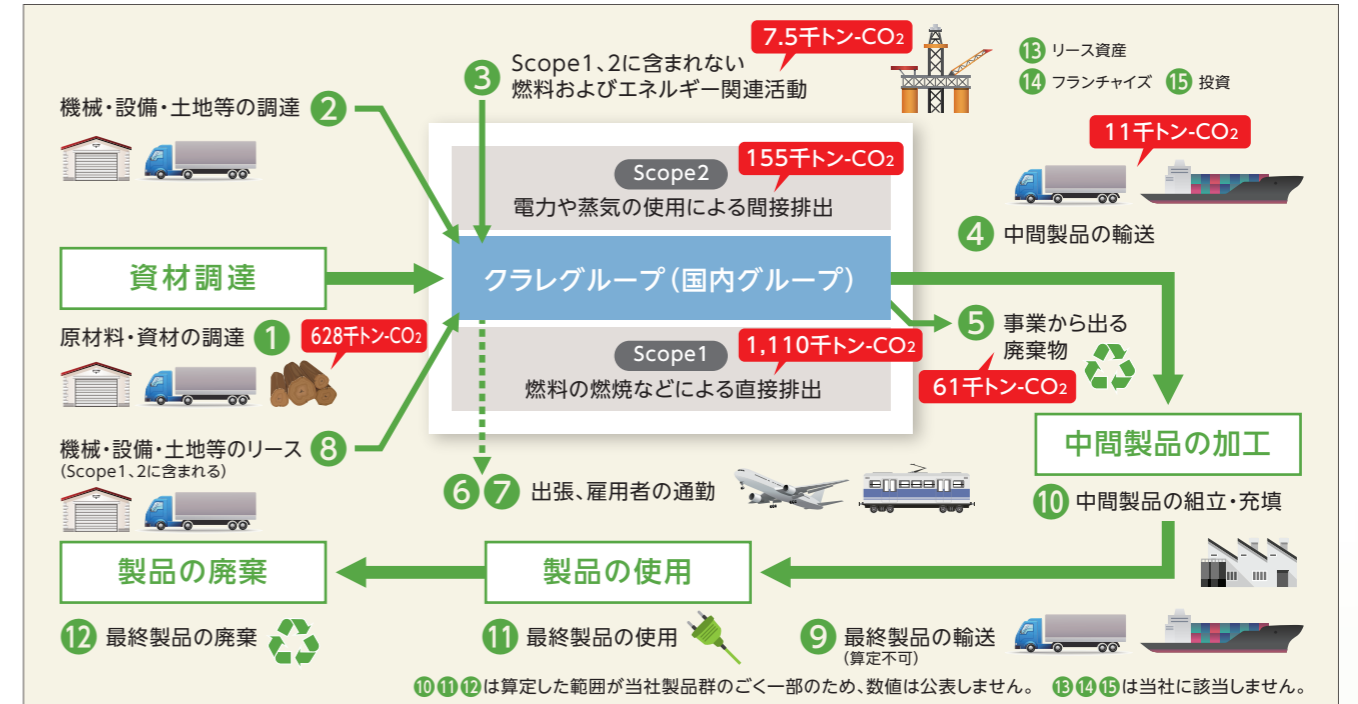
するとともにCSRレポート等で公表してきました。

一方、サプライチェーン全体を考慮したGHG排出量であるScope3は家電メーカー等では先行して算定・公表する企業が出てきています。また環境NGO等から企業に対してScope3の排出量の算定・公表を求める動きも増えてきていることから、クラレでは2013年度実績から算定を開始しました。

Scope3の全15カテゴリのうち、当社に非該当の4カテゴリ、データ収集不能・困難な4カテゴリを除く7カテゴリについて2015年度実績を算定しました。

※GHGプロトコル(The Greenhouse Gas Protocol):世界資源研究所(World Resources Institute; WRI)と世界環境人協議会(World Business Council for Sustainable Development; WBCSD)が中心になり、世界中の企業、NGO、政府機関等が参加して温室効果ガス/気候変動に関する国際スタンダードや関連ツールを開発するイニシアティブです。

[Scope3] サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量管理イメージ (図中の①から⑮はScope3のカテゴリを示す)



化学物質の排出管理

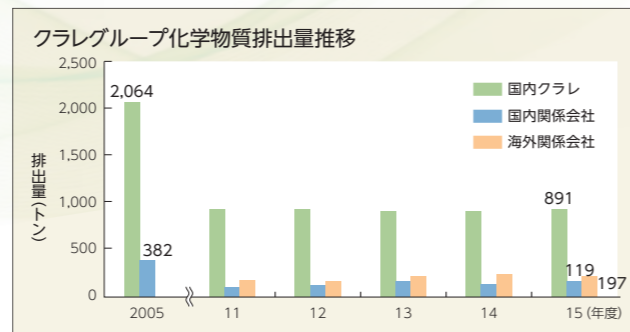
国内グループでは化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)に従って対象となる化学物質の年間排出量を調査・把握し、国に報告しています。また、クラレグループではPRTR法の対象物質以外に日本化学工業協会(日化協)が定める化学物質についても同様に排出量を把握してWebサイト等で公表しています。この他に残留性有機汚染物質(POPs)、揮発性有機化合物(VOC)、有害大気汚染物質(HAP)、粒子状物質(PM)が化学物質として考えられますが、クラレにおいては表の通り対応しています。

区分	物質名	対応
POPs	ポリ塩化ビフェニル(PCB)	PCB特措法(2027年無害化処理期限)に従って、保管・管理・報告、無害化処理中
	ダイオキシン類	事業所毎に排出量測定(Webサイト参照)
	上記以外	製造・使用の該当なし
	VOC	PRTR物質に含まれるため、PRTR物質として排出量を測定、報告(事業所毎の排出量はWebサイト参照)
	HAP	
	PM	ばいじん排出量を21頁マテリアルフローで報告
PRTR		法対象物質および日化協の対象物質について排出量を測定、報告(事業所毎の排出量はWebサイト参照)

環境への取り組み

2015年度のPRTR物質の排出量は1,010トン(大気927トン、水域83トン)でした。

国内グループの環境効率は基準年である2010年度を100として121.2と向上しています。有機溶剤系から水系に生産工程を変更するなど、生産量が増加しても排出量が増加しないように対策を進めたこと等により環境効率は年々向上しています。なお海外関係会社については、日本のPRTR法のような法規制はありませんが、夫々が立地する各国の化学物質排出管理規制に従い排出量削減に取り組んでいます。2015年度の排出量は197トンとなりました。



廃棄物の有効利用

国内クラレグループでは、「廃棄物の有効利用率90%以上、最終埋立処分率1%以下」を2007年度以降継続していますが、2015年度も有効利用率97.6%、最終埋立処分率0.34%とこの状況を維持しました。

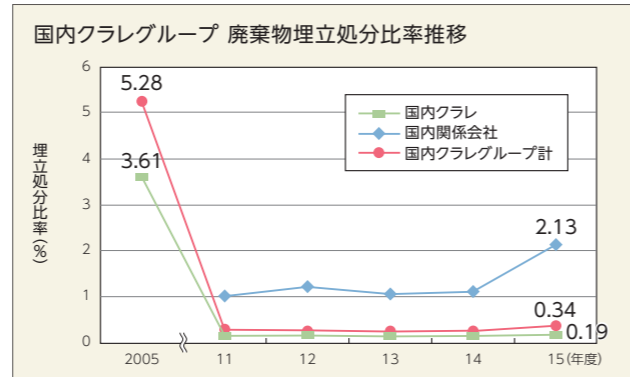
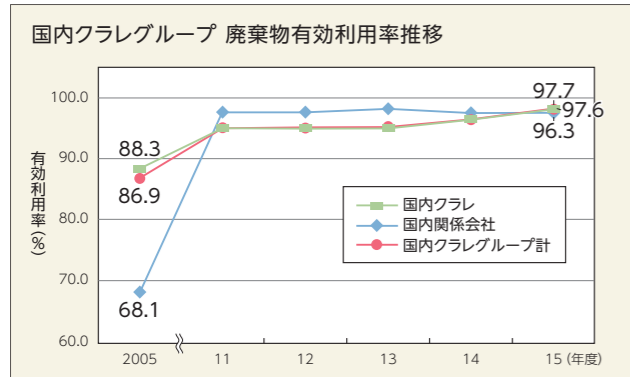
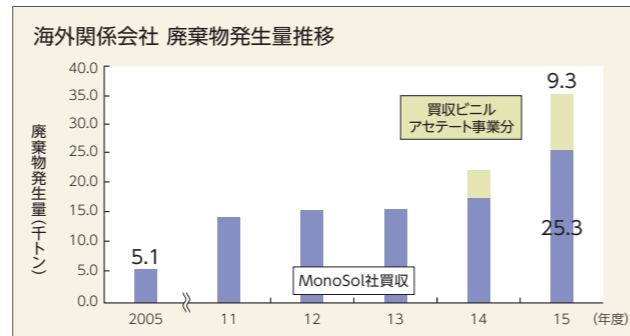
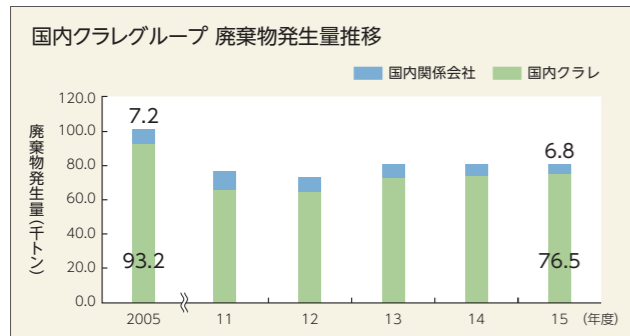
また2015年度は環境効率で2010年度を100として99.4となり、基準年度である2010年度とほとんど変わらない結果となりました。

国内クラレグループの廃棄物発生量は、生産量の増加に伴い、ここ数年はやや増加傾向ですが、各事業所、関係会社では製品収率の向上など、廃棄物発生量を少しでも減らすため地道な努力を続けています。

一方で海外関係会社では、買収・増産投資による生産量増大が続き、生産量は2010年に比べ大きく増加しています

(中間体を含め約3倍)。それに伴って廃棄物発生量も増加し、削減努力は続けているものの廃棄物発生量は2010年度の2.6倍となっています。そのため環境効率も2010年度を100として71と大きく低下してしまいました。今後も動向を注視すると共に、運転条件の最適化や再原料化などの削減対策に引き続き取り組んでいきます。

なお、海外関係会社における廃棄物発生量が国内グループの廃棄物発生量に比べ非常に少ないのは、電力などのユーティリティを外部の供給会社から購入し、工場排水処理も外部の処理業者に委託しているため、ボイラーからのばいじん・焼却灰や排水処理設備からの余剰汚泥が発生しないためです。



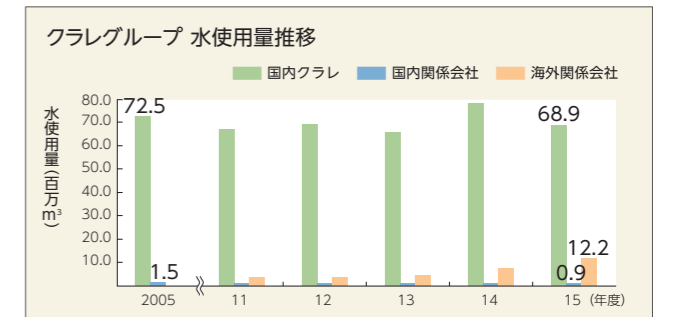
水資源の有効利用

クラレグループでは海外関係会社も含め、水資源が乏しく事業活動が水源に影響を及ぼすような地域での生産活動は行っていません。

国内グループの取水量(海水を除く)は69.8百万m³で、ここ数年大きな変動はありません。一部事業所では、温排水の熱回収や冷却水のボイラー用水への再利用等の“水のリユース”を行っています。

国内クラレグループでは当面水供給リスクに直面する可能性が低いこと、取水量削減には巨額の設備投資が必要と見込まれることなどから、できる限りの節水には努めながら設備投資を伴う取水量削減は当面実施しないこととしました。今後も節水に努めながら使用量のトレンドを追跡し、対策実施の必要性を検討していきます。

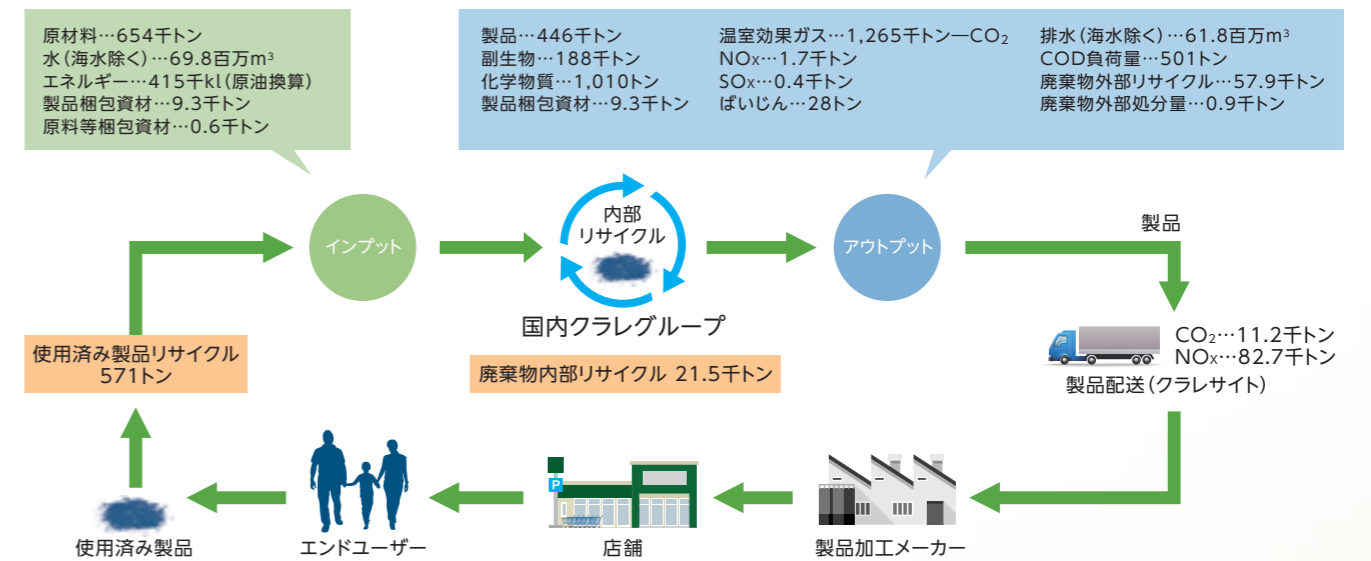
また、海外関係会社では2014年度以降、水使用量が大きく増加しています。これはM&Aによる事業拡大、中間体製造量の増大、更には既存事業における生産拡大によるもので、これらの要因により環境効率は大きく低下して2010年度を100として53となってしまいました。



事業活動のマテリアルフロー(2015年度、国内クラレグループ)

クラレグループは事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質および水資源などを使用しています。投入する資源、排

出物質を定量的に把握し、事業活動に伴う環境負荷を低減するために役立てています。



※環境会計、および環境データ集については、Webサイトをご覧ください。

Kuraray.co.jp/csr/report2016/environmental/

～キャリアサポート～

キャリア構築に積極的に取り組み、一人ひとりが生き生きと働く組織を目指して



自律的なキャリア開発をサポートする仕組み

クラレ国内グループでは、社員が自分のキャリア構築に積極的に取り組み、一人ひとりが生き生きと働く組織を目指して、『自

律的なキャリア開発をサポートする仕組み』を2015年度よりスタートしました。

この仕組みは大きく「自分でキャリアをデザインする研修」と「キャリアアドバイザー制度」で構成されています。研修は3つの年代層を対象に実施し、年代毎のステージ、個人の価値観を反映したキャリアビジョンを描きます。研修前後には上司との面談、キャリアアドバイザーとの面談を行うこと



しており、周囲がキャリアビジョンの実現をサポートする点が特徴です。



研修に参加して：大島 正和（岡山事業所 設備技術部）

研修では過去を振り返ることに始まり、今の自分の価値観・人間関係などを見つめ、今後何を目標にどのようにしていきたいかを考えました。中には思い出したくないこともありましたが、職務から離れて2日間、じっくり自分と向き合い、今後の目標を明確にできたことで、今の仕事・生活にも充実感が出たと感じています。

この研修・面談を通して考えたことは、今後のキャリアに欠かせないものだと思います。私の話を親身に聞いて下さったキャリアアドバイザー、上司、研修に携わった方々に感謝しています。

職場での取り組み

クラレグループはグローバル人事ポリシーに基づいて、社員一人ひとりが仕事を通じて人間的に成長できるよう、多様性の推進、人材育成、公正・公平な評価などの制度を整えるとともに、健全な組織風土の醸成と雇用機会の創出に取り組んでいます。

社会性目標と実績

テーマ	目標	経過・実績	評価・課題	2016年度計画
働きがいを実感できる人事施策の実施	社員に対する成長機会の提供	・社員が自分のキャリア構築に積極的に取り組むための研修制度を新設(P22ハイライト参照)	・15年度からの運用のため、評価は今後となるが、個人の成長機会の促進に期待 ・本制度の定着が課題	・「自律的なキャリア開発をサポートする仕組み」の定着
		・総合職新入社員にメンターを配置するメンター制度を継続実施。制度目的浸透のためメンター向け説明会を開催	・本制度の定着が課題	・メンター制度の更なるブラッシュアップを検討
		・GTT実施。海外の7社から参加(P24参照)	・海外からの参加者数、参加国が拡大。参加国の維持・拡大が課題	・GTT制度の継続実施
ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスの推進	女性活躍推進	・配偶者海外転勤同行休職制度の新設 ・育児時差出勤制度の新設 ・育児休職者への休職前・復職時のガイダンスの充実	・家庭と仕事を両立しながら、キャリアを形成することを支援する仕組みが不十分	・女性活躍推進のための更なる取り組みを開始(管理職・女性を対象とした意識啓発等の研修を企画)
	働き方の向上	・各自の「働き方向上の取り組み」を策定、取り組み開始	・働き方向上のための具体的な取り組みの提案・実行が課題	・多様な働き方に対応した勤務制度の拡充
	年休取得率の向上	・年休取得率80%達成(P25参照)	・取得率の更なる向上と取得率80%の維持が課題	・取得を促進する具体策の検討
心身の健康管理施策の強化・推進	メンタル対策の継続・強化	・研修(ラインケア・セルフケア研修)を継続実施 研修参加者：899名(6拠点)	・概ね計画通り実施できた。継続的に取り組むことが課題	・研修の継続実施 ・ストレスチェックの実施
	生活習慣病対策の継続・強化	・健康づくり運動：健康推進イベントの開催実施 ・禁煙活動：禁煙セミナーの開催	・継続的に取り組むことが課題	・健康づくり運動の継続 ・禁煙活動の推進

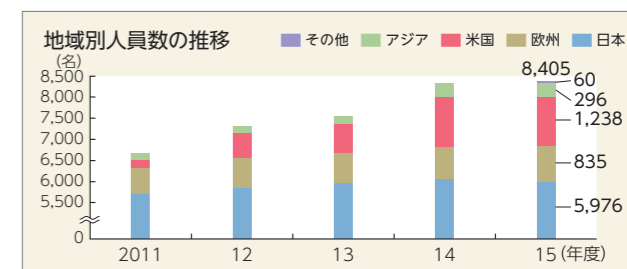
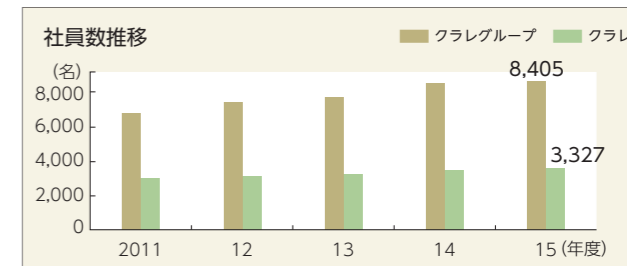
人材への基本的な考え方

■ グローバル人事ポリシーについて

クラレグループの人材への基本的な考え方は、全て「クラレグループグローバル人事ポリシー」に盛り込まれています。

クラレグループグローバル人事ポリシー

- 1 個人の人権を尊重します。
- 2 差別を撤廃し、多様性を尊重します。
- 3 法律を遵守した人事施策を実行します。
- 4 公平・公正・透明な人事制度を目指します。
- 5 職場環境の整備に努めます。
- 6 クラレグループの発展に貢献できる人材の雇用に努めます。
- 7 適材適所の配置を行います。
- 8 納得性の高い評価・処遇を行います。
- 9 能力開発を支援します。
- 10 適切な情報開示、コミュニケーションの促進に努めます。



社員数

2015年12月末現在

	全体	男性	女性
クラレグループ全体	8,405名	7,006名	1,399名
クラレ単体	3,327名	2,988名	339名

※グループは連結対象会社

クラレ離職率

2015年度

	退職者数	離職率
自己都合	36	1.1%
定年	76	2.3%

※離職率は、事由別退職者数/期初クラレ社員数

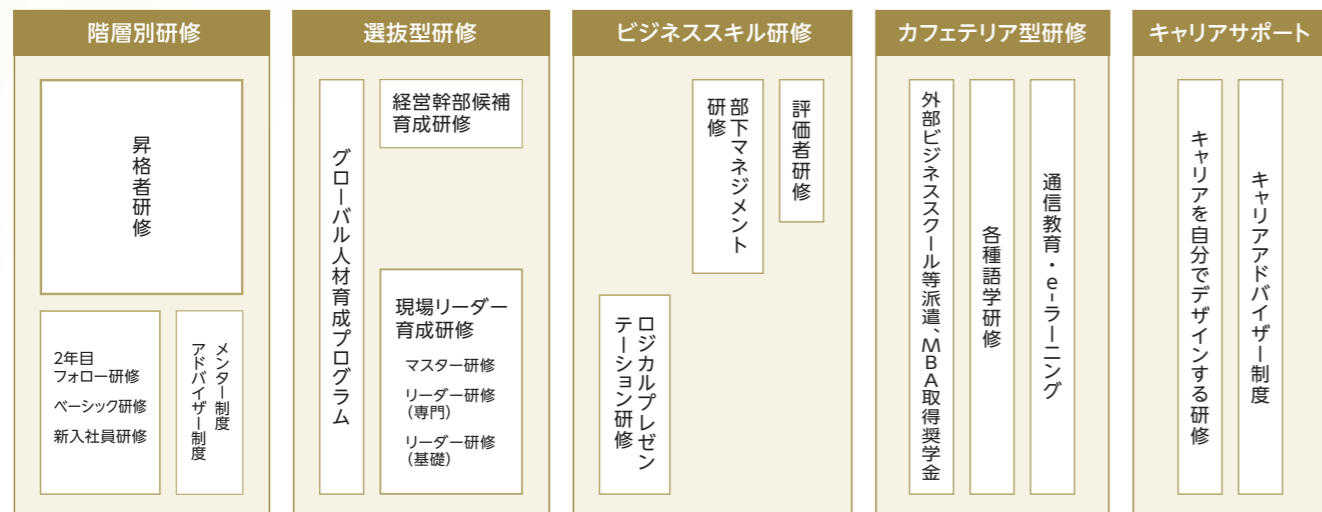
職場での取り組み

■ 人材育成についての考え方

国内クラレグループでは、業務上必要な知識・スキルの獲得と社員の自律的なキャリア形成をサポートする全社研修制度を設けています。

全社研修は、正社員だけでなく、臨時パート社員、契約

クラレ全社研修制度



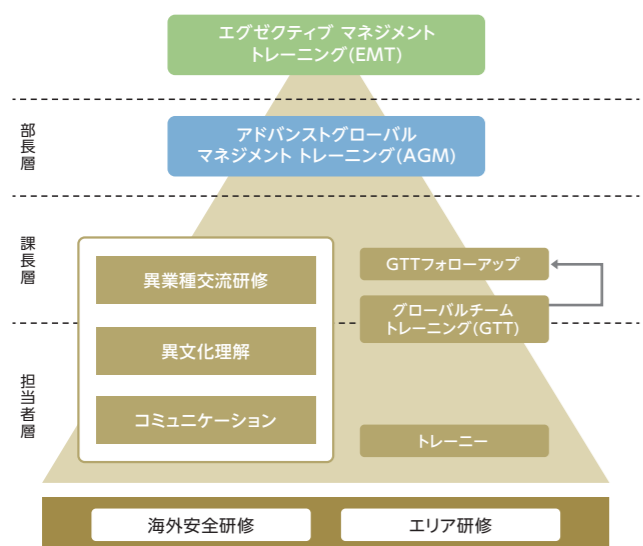
【グローバル人材育成プログラム】

クラレグループのグローバルな成長のさらなる加速のために、世界を舞台に活躍できる人材を育成すべく、各階層毎に研修を実施しています。

2015年度は、部長クラス・課長クラスを対象に集合研修(AGM、GTT)を、また担当者レベルを中心に短期トレーニー等を実施し、国内・海外を合わせて約50名強が参加しました。

2016年度は2015年度に開催した各プログラムをブラッシュアップしていくとともに、事業部長クラスを対象とするEMTも実施する予定です。

グローバル人材育成プログラム



社員も必要に応じて受講が可能であり、クラレ各事業所、各国内グループ会社でも、独自の研修を企画・実施して、社員のスキル開発・キャリア形成にきめ細かく対応しています。また、自己啓発による一定の公的資格の取得に対して、奨励金を支給する資格取得支援制度を設けています。

■ 公正・公平・透明な制度

【人事諸制度】

当社は、年功や属人的要素ではなく、職務遂行能力の向上や業績・役割、高い目標へのチャレンジを処遇に反映する人事制度を導入しています。

具体的には、管理職は役割・業績に応じて処遇する役割等級制度により、一般社員は能力伸長度・業績に応じて処遇する職能資格制度により、給与・賞与を決定しています。また、希望するキャリアパスに応じて育成コースを転換できる制度も取り入れています。2016年度は、処遇制度の納得性をより一層高めるよう、賃金・手当・賞与・勤務制度の各分野について見直しを継続していきます。

【評価について】

人事評価は上司と部下が面談のうえで、職務や能力開発上の目標を設定し、実績を評価する目標管理制度を取り入れており、評価者研修も継続的に実施しています。

働きやすい職場環境への取り組み

■ ダイバーシティ(多様性)の推進

クラレでは、女性・高齢者・非正規社員など多様な人材の能力を最大限に活かし、組織力を向上することを目標としています。特に女性社員の採用と職域の拡大、職場への定着の3点を重点的な課題としています。

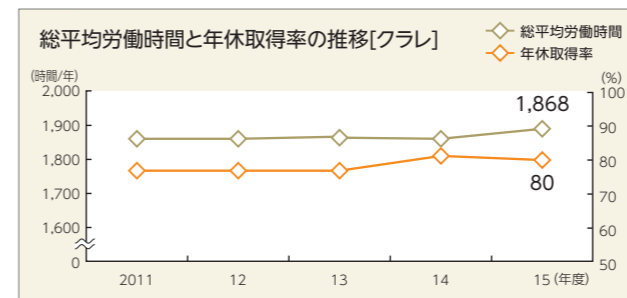
15年度は、社員が長く働き続けるための環境整備の一環として、「配偶者海外転勤同行休職制度」を導入しました。

16年度は、キャリア開発と育児等の家庭事情を両立できるよう、女性活躍を推進するための風土醸成や女性社員のキャリア意識向上等を目的とした研修を企画していきます。

■ ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

【勤務制度と平均労働時間】

クラレでは、個人の仕事内容に応じた「裁量労働制」「事業場外みなし労働時間制」「変形労働時間制」など、柔軟な勤務制度を導入しています。また、ノー残業デーの実施や年休取得率の向上に取り組んでいます。



【育児介護休職制度】

社員の育児・介護をサポートする制度を導入しています。育児休職は、保育園入園時期を考慮し、子どもが1歳到達後の4月末まで、もしくは1歳6ヵ月になるまでのいずれか長いほうの期間を取得できます。また、男性の育児参加を促進するため、男性の育児休職取得を推進しています。

育児休職・介護休職者数[クラレ]

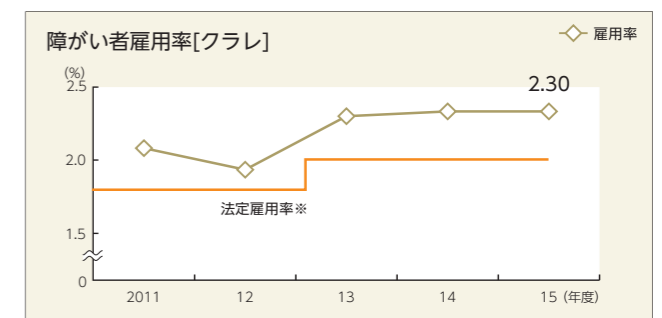
年度	育児	(うち男性)	介護
2011年度	35名	22名	0名
2012年度	53名	36名	0名
2013年度	59名	38名	0名
2014年度	46名	7名	2名
2015年度	48名	18名	2名

【退職者再雇用制度】

育児や介護、配偶者の転勤で退職した後再就職を希望する人に再雇用制度を制定し運用しています。

【障がい者雇用】

法定雇用率(2.0%)を達成するだけでなく、地域や障がい者の支援機関などとも連携して、障がい者の自立支援に取り組めます。地域の福祉施設と連携して知的障がい者のための作業所を開設しています。



※2013年4月より法定雇用率が1.8%から2.0%に改定されています。

■ 心身の健康管理への取り組み

【労働衛生基本方針について】

クラレグループは心身ともに健康で安全に働くことのできる職場環境を整備するため、「クラレ労働衛生基本方針」を制定しています。

クラレ労働衛生基本方針

クラレグループでは、「私たちの誓約」に基づき、社員および関係者の安全と健康の確保が企業活動の基本と認識し、健康で安全に働くことのできる職場環境の整備と健康づくり活動に取り組んでいます。

【メンタルヘルスケアへの取り組み】

4つのケア(セルフケア・ラインケアなど)の取り組みを通じて、メンタル不調の低減に努めます。予防のための研修実施や、カウンセリングなどの相談の仕組み、休職者の職場復帰のためのリハビリ出勤制度などを整備・推進しています。

【健康づくりの支援】

個別の健康指導や、健康づくり運動の推進などで、社員の健康意識向上を図ります。社員が自主的に生活習慣改善に取り組む「ヘルスアップ作戦」を全社的に展開しています。また、改善が必要な社員の早期発見のため、法律を上回る内容で健康診断を実施しています。

■ 労働組合との関係

クラレ労働組合とクラレグループに所属する労働組合によって組織されるクラレ労働組合連合会があります。労使協議会や安全衛生協議会などを通じ、さまざまな課題について真摯に協議し解決に取り組んでいます。

～子どもたちのボランティアの想いを受け止め、今年もランドセルが海を渡る～

物資が不足している地域の子どもたちのために、「ランドセルは海を越えて」キャンペーンを実施



年度	個数
2004年度	8,514
2005年度	12,076
2006年度	5,504
2007年度	6,894
2008年度	7,022
2009年度	7,522
2010年度	8,973
2011年度	11,144
2012年度	8,326
2013年度	6,396
2014年度	7,908
2015年度	7,111
累計	97,390



(写真提供ジョイセフ)

想いの詰まったランドセルが第二の人生を歩みます。

「ランドセルは海を越えて」は、戦禍によって教育機会を奪われたアフガニスタンなどの子どもたちに、毎年、日本の小学生が使っていたランドセルを文房具や手紙を添えて贈る国際貢献活動で、現在までにアフガニスタン・モンゴル・ネパールで活動実績があります。

2004年のスタートから12年目を迎

た、2015年度は全国各地から、7,111個のランドセルの提供がありました。このランドセルは、公益財団法人ジョイセフの協力のもと、関係団体やクラレグループ社員の手で仕分けて梱包した後、多くのボランティアの協力を得て海を渡り、10月～12月にかけてアフガニスタンのナンガール州にある11の小学校で、学用品とともにプレゼントされました。今までの累計97,390個になります。今後、

他の国にも支援の輪を広げたいと考えています。



(写真提供ジョイセフ)

Voice



子どもたちの笑顔を思い浮かべながら

総務・人事部 伊藤 淳子

このボランティア活動には今年で5回目の参加になります。アフガニスタンでの活動を記録した映像を見た、ランドセルを受け取った時の子どもたちの嬉しそうな笑顔がとても印象に残っています。これからもこの活動を続け、現地の多くの子どもたちに、たくさんの笑顔を届けることができたいと思います。

※詳細→kuraray.co.jp/csr/randoseru/

社会との取り組み

クラレグループは、企業市民として社会的な問題に取り組むことは、企業として重要な社会貢献であると認識し、クラレグループ社会貢献活動方針に則り、文化・学術・環境・福祉の4分野を中心に活動しています。

社会との関わり方の目標と実績

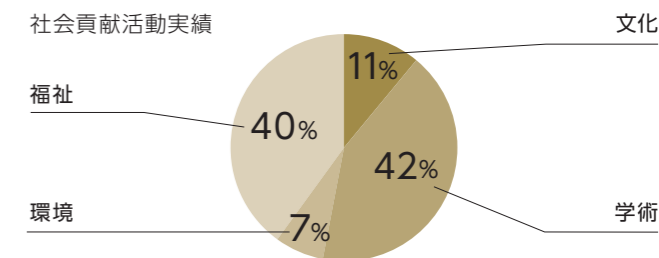
目標	2015年度		2016年度目標
	実績	評価と課題	
【学術】 「ランドセルは海を越えて」キャンペーンの着実な実行	・送付実績/7,111個 ・Webサイトを通じての一般募集、及び各事業所から近隣小学校へランドセル提供を募った	・計画通り実行。次年度も同様の取り組みを継続していく	・新たな支援先(国家)を探索する
【学術】 「少年少女化学教室」を5事業所と本社で年1回以上実施する	・開催実績/9回173名(倉敷2回、西条3回、岡山2回、新潟2回、他に鹿島事業所は、かみすフェスタ、青少年のための科学の祭典に出展) ・東京本社では夏休み子ども化学実験ショー(科学技術館)へ出展した	・計画通り実施できた	・事業所と本社で年1回以上実施する ・社外のイベントへの出展 ・外部の連携先を探索する
【福祉】 知的障がい者の作業施設の運営	・雇用人数/障がい者:39名、指導員:12名(新潟/西条/倉敷/鹿島の合計)	・計画通り実行でき、雇用数を維持することができた	・作業施設での雇用者数の維持
【文化】【学術】【環境】【福祉】 事業所・関係会社において、地域とのつながりに重きを置いた既存活動を着実に実行する	・既存の活動に着実に取り組んだ ・新規取り組みとして、岡山事業所で児童テニス大会を開催した	・従前より取り組んできた活動の継続実施に加え、新たな取り組みを開始することができた	・活動の継続実施 ・海外拠点も含めたグループ全体の活動状況を一元的に把握する

社会貢献活動

■クラレグループの社会貢献活動について

クラレグループは、社会の健全で持続可能な発展が企業としての成長や繁栄の条件であるとともに、企業活動の究極の目標であると考えています。人々にとって価値のある製品や事業を通して社会に貢献することはもちろん、企業市民として一定の節度ある範囲で社会的な問題に取り組むことは、企業として重要な社会貢献であると認識しています。

2015年度は、クラレグループ社会貢献活動方針に則り、文化・学術・環境・福祉分野を中心に活動しました。



【文化領域への取り組みについて】

クラレグループは、初代社長の原孫三郎が設立した公益財団法人大原美術館への支援を継続的に実施するとともに、事業所での文化活動の支援も行っています。

岡山事業所では、2005年から「小学生絵画・書道コンクール」を毎年開催しています。本コンクールは、日頃の成果を発揮する場として定着しており、2015年度は事業所近隣の5つの小学校から多くの作品応募がありました。なお入賞作



小学生絵画・書道コンクール(岡山)

品は公民館に展示、全作品はホームページ上に掲出しています。今後も継続して取り組んでいきます。

クラレグループ社会貢献活動方針

クラレグループは、社会の一員としての責任を果たすため、以下の方針に基づき、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

活動のあり方

- ・社会的な課題の解決につながる活動
- ・国内外の事業拠点の地域社会に根ざした活動
- ・社員の主体的参加を重視した活動
- ・長期的に持続可能な活動

活動の領域

「文化」「学術」「環境」「福祉」を重点領域とする

【学術領域への取り組みについて】

2015年度は、従来の活動を継続支援することによる健全な青少年育成を目標に、各事業所での青少年化学教室の開催、社外イベントへの参加、スポーツ大会の主催などを実施しました。

子どもたちに化学実験を通して、化学の楽しさを知ってもらう教育活動として、小学生を対象に「青少年化学教室」を開催しています。この取り組みは、事業所内の専門教室や、地域の小学校、公共施設などで、社員ボランティアが講師やアシスタントを務めるもので、1992年より毎年国内の各事業所で開催しています。2015年度は、各事業所で合計9回、のべ173名の方に参加いただきました。また、東京本社では夏休み子ども化学実験ショー（千代田区）へ出展、鹿島事業所ではかみすフェスタ（神栖市）、青少年のための科学の祭典（銚田市）へ出展し、クラレブースには約2,800名の方に訪れていただきました。今後も継続して取り組むとともに、社外のイベントにも積極的に参加します。



青少年のための科学の祭典（鹿島）

事業所	教室名	累計回数	累計参加人数
倉敷事業所	おもしろかがく館	67回	1,799名
西条事業所	わくわく化学教室	67回	1,991名
岡山事業所	おもしろ化学教室	41回	1,323名
新潟事業所	ふしぎ実験室	51回	1,518名
鹿島事業所	おもしろ化学教室	19回	1,228名
合計		245回	7,859名

青少年育成の観点から、各事業所でスポーツ大会を開催しています。2015年度は、岡山事業所で新たに児童テニス大会を開催するなど、各事業所で主催している既存の各種スポーツ大会に加え、新たな取り組みも行っています。また、会社の保有する野球場・体育館・テニスコートを近隣の学生向けに開放し、地域スポーツの振興に努めています。今後も継続していきます。



児童テニス大会

【環境領域への取り組みについて】

2015年度は、毎年活動している森林保全や清掃ボランティアを実施することを目標に、森林保全は岡山事業所の「クラレ岡山みらいの森」、新潟事業所の「ミラバケツの森づくり活動」を実施、全ての事業所で清掃ボランティアを行いました。今後も継続して、森林保全や清掃ボランティアに重点的に取り組めます。



「クラレ岡山みらいの森」の作業風景（岡山）

クラレの各事業所では、自治体・NPO法人と連携して、社員ボランティアによる森林保全活動や、公園や道路の清掃、保育園の園庭の芝刈り等の活動に取り組んでいます。

2015年度は、岡山事業所で、岡山県吉備中央町と取り組んでいる「クラレ岡山みらいの森」の活動が企業による森づくり活動の例として、岡山県の小学5年生の森林環境教育の副読本に紹介されました。今後も、引き続き積極的に取り組めます。

【福祉領域への取り組みについて】

2015年度は、知的障がい者の就労支援・雇用数の維持・定着を図ることとクラレふれあい募金の実施を目標に、倉敷事業所、西条事業所、新潟事業所、鹿島事業所での知的障がい者の作業施設の運営、また各事業所でクラレふれあい募金の寄付などを実施しました。また西条事業所と新潟事業所では桜の開花時期に合わせて観桜会を開催しており、近隣の福祉施設の方に来場いただきました。今後も継続していきます。

クラレは、障がい者に雇用機会を提供することによって、その自立を支援するため、地域の福祉施設と連携して知的障がい者のための作業所を設置しています。

新潟事業所の「クラレ作業所」は、1997年に中条町（現・胎内市）と社会福祉法人七穂会「虹の家」の協力を得て、知的障がい者就労の場として開所し、生産工程で発生する端材をリサイクルするための分別や、備品の製作などを行っています。2007年には西条事業所の「ひまわり作業所」が開



製品ラベル貼付作業風景（倉敷）

所、2011年には、鹿島事業所で社会福祉法人神栖啓愛園の支援により「あおぞらワークス」を開設し、倉敷事業所で作業服のクリーニング・製品のラベル貼付作業に従事している社員を含めると、4つの事業所で、合わせて12名の指導員と39名の作業員が働き、さまざまな業務に従事しています。また社員とスポーツイベントなどを通じて交流しています。今後も引き続き運営を継続し、雇用の維持・定着を図ります。

	作業内容
倉敷	作業服のクリーニング、製品のラベル貼付
西条	製品のリサイクル、作業服のクリーニング
新潟	製品のリサイクル、鍋敷・エプロンの製作、作業服のクリーニング
鹿島	製品の包装袋の二重化、製品の異物選別

CSR調達

■クラレCSR調達活動の歩み

【取引先へのグリーン調達の推進（2002年～）】

『クラレグループ地球環境行動指針』（1993年制定）の下、2002年に地球環境保全を推進するための「グリーン調達基準」を策定しました。主要取引先約800社に「グリーン調達基準」の冊子を配布するとともに、各社の取り組み状況の評価を実施しました。

クラレCSR調達方針

人権の重視

- ① 人権・人格の重視
- ② ILOの中核的労働基準の遵守
 - ・ 団結権・団交権の保障
 - ・ 強制労働の禁止
 - ・ 児童労働の禁止

コンプライアンスの遵守

- ・ コンプライアンス方針
- ・ コンプライアンス遵守システム
- ・ コンプライアンス教育プログラム

グリーン調達の推進

- ・ 環境方針、環境報告書の作成
- ・ グリーン調達の実行計画、実行組織
- ・ ISO14001の認証取得
- ・ グリーン調達の教育、啓蒙の実施

クラレでは、社員の寄付金に、その同額を会社がプラスして行う寄付制度であるマッチングギフトを「クラレふれあい募金」の名称で1992年7月からスタートしました。制度に賛同する社員が月次給与100円未満の端数を積み立て、その同額を会社が拠出します。集まったお金は基金として、社会福祉に役立てるよう活用しています。

2015年度は、各事業所の近隣にある福祉施設や自治体、学校を中心に、介護用品や図書等を寄贈するなど、地域に根ざした活動を行いました。今後も引き続き、基金を社会福祉に役立てていきます。



クラレふれあい募金によるクラレ文庫（西条）

【CSR調達への展開（2005年～）】

2005年には、国際的な普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」の10原則に基づき、「クラレCSR調達方針」を策定しました。

これは、従来取り組んできた「グリーン調達の推進」に「人権・人格の重視」、「コンプライアンスの遵守」を加えた、より包括的な内容です。取引先にこの方針の理解をお願いするとともに、アンケート調査により主要取引先約700社のCSR調達の取り組み状況を把握し、課題がある取引先に対してはフィードバックと改善のお願いを実施してきました。

【CSR調達の継続（2016年～）】

新規取引先には取引開始時に、CSR調達の取り組み状況を確認する作業を継続します。さらに機資材購買においては購買システムの刷新により、インターネット経由でCSR調達の取り組み状況を確認できるようになりましたので、これにより、さらに的確な状況把握を図ります。

■クラレのグリーン商品購入活動

2002年よりクラレでは事業活動に必要な9品種107品目（文具、OA機器、自動車他）について、「グリーン購入ガイドライン」を定め、環境負荷の低い「グリーン商品」を優先的、積極的に購入する活動を進めており、今後も継続します。

CSRマネジメント

コーポレート・ガバナンス

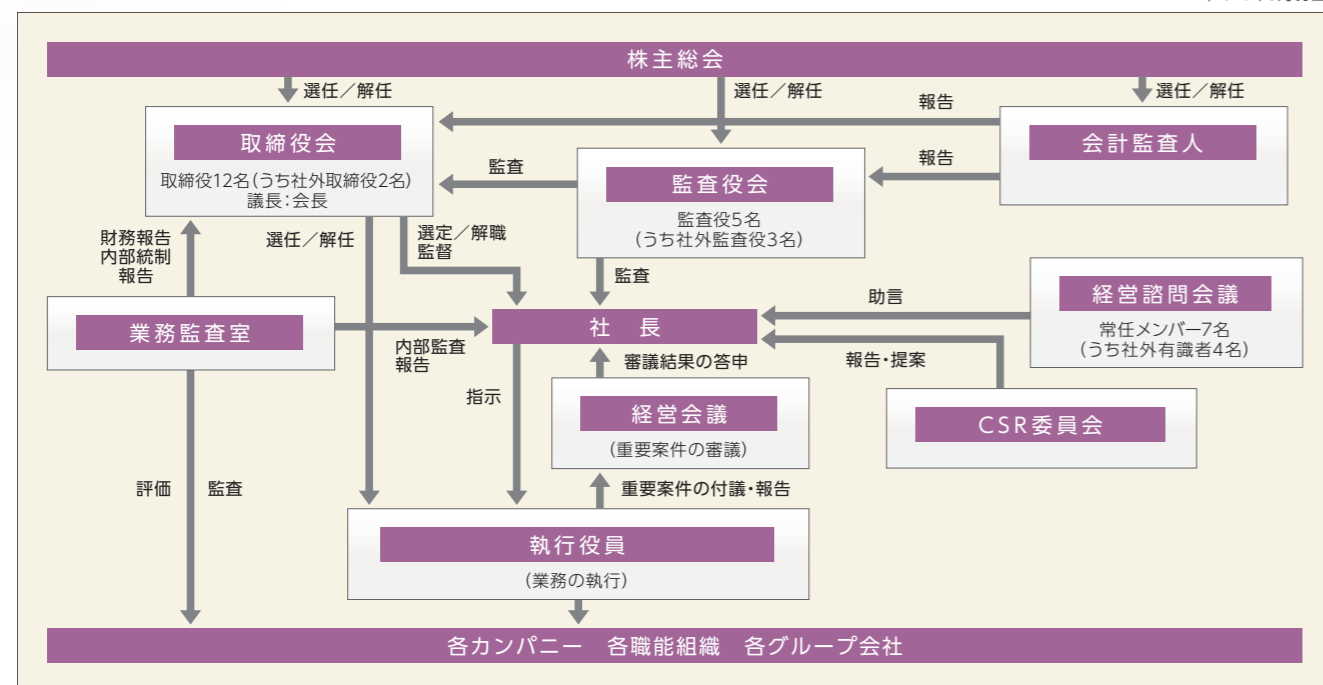
クラレは、株主をはじめとする社会の多様なステークホルダーとの適切な関係を維持し、企業としての業績向上と持続的な発展を期すとともに、企業の社会的責任を果たすうえで、コーポレート・ガバナンスが重要と考えています。

クラレは2003年度に社外監査役の増員による監査役会の強化、経営諮問会議の設置、取締役の任期短縮、執行役員

員制度の導入による監督と執行の分離を行い、2008年度からは社外取締役を選任するなどコーポレート・ガバナンスを整備してきました。また、2015年度には、「内部統制の整備システムに関する基本方針」を改定し、グループとしてのガバナンス体制の強化に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図

(2016年3月現在)



CSR推進体制

クラレは2003年に社会環境委員会と企業倫理委員会を統合して「CSR委員会」を設置し、グループとしてのCSR推進体制を強化しました。CSR委員会の下に3つの専門委員会(社会・経済委員会、環境安全委員会、リスク・コンプライアンス委員会)を、各専門委員会の下に9つのワーキングチームを設け、全社の方針や目標を検討して経営に

提案しています。左記の委員会やワーキングチームを構成する専門職能部署はCSRに関する全社方針に基づいて、グループの各組織と連携してそれぞれのテーマに取り組めます。また、CSR委員会の委員を各担当取締役および各カンパニー長とすることにより、多面的な検討を可能にしています。

コンプライアンス

クラレグループは経営者や社員一人ひとりが「よき市民」として高い倫理観に裏打ちされた行動をとる組織風土を築き、企業の透明性、公正性を確保するため、狭義の法令遵守にとどまらないコンプライアンスの取り組みを推進しています。多様な社会との接点において遵守すべき事項を「私たちの誓約」として、またこれを企業活動の中で具体的に実践するためのガイドラインを「行動規範」として定めています。そして、いつ、いかなる局面にあっても、法令および「私たちの誓約」を厳守するこ

とをトップが宣言しています。これを世界中のクラレグループで働く全員が共有するため、トップ宣言を明記し、「行動規範」を解説したコンプライアンス・ハンドブック(8言語:日、英、独、中、韓、露、フラン、チェコ)を作成して、社員に配布します。

また、クラレ各地域拠点およびグループ各社にコンプライアンス統括者を選任するとともに、各地域にコンプライアンス委員会を設けて、グループ全体の取り組みを効果的・継続的に推進していく計画です。

内部通報制度

コンプライアンス違反を防止、または早期に発見・解決するための内部通報制度として、国内クラレグループ全社員(パート社員、契約社員、派遣社員を含む)を対象に「クラレグループ社員相談室」を設置し、欧米の主要拠点にも内部通報窓口を設けています。近年、M&A等により急速にグローバル化が進んだことから、窓口が未整備の拠点についても、これを整備し、国内外の全グループ社員が必ずいずれかの窓口アクセスできる体制を構築していきます。

リスクマネジメント

クラレグループでは、各事業部、本部、室、事業所、関係会社自組織のリスクを特定し、これらを自己評価してリスクに対応するタテのリスク管理と、発生するとマイナスの影響のみを与える純粋リスク(例えば、自然災害、法令違反など)を担当する本社スタッフ部署が評価して組織横断的に管理するヨコのリスク管理を行っています。さらに、これらの管理活動から得られるリスクの中から経営レベルで管理すべき重要なリスクを抽出して重点的に対策を進めています。また、毎年社長よりグループのリスク管理に関する方針を各組織に示達しています。

2016年度から、グループのリスク管理全体に亘る長期的・継続的な方針である「基本方針」と近年の社会情勢、当社・他社動向に鑑みて当該年度に重点的に取り組む「年度課題」に分けて策定し、リスク対応の基本的な考え方を維持しつつ、リスク環境の変化に柔軟・迅速に対応できるようにしました。

品質マネジメント

クラレグループでは、主に製造事業所単位でISO9001等の品質マネジメントシステムを導入し管理を行っています。事業部では、事業ごとにお客様の要求を製品に反映し、供給するための仕組みを構築しています。CSR本部は、グループ全体の品質マネジメント強化の活動を行っています。

事業部では、2012年よりエパール事業部が顧客満足度向上を目指した「ICS活動」を継続して行っており、組織横断で改善活動を行う等活動の質を向上させています。2015年度より、同様の活動をジェネスタ事業部でも開始しました。2014年に発足させた品質保証・製品安全ワーキングチームでは、グループ全体の品質管理に関わる共通テーマを取り上げており、2015年度は①委託加工管理に対する事業部間の情報交換、改善提案、②お客様からの品質マネジメントに関する調査の集約、分析と情報共有を行いました。

クラレグループ社員相談室 相談件数の推移

年度	2011	2012	2013	2014	2015
件数	2	5	1	1	3

公正取引委員会による立ち入り検査について

当社は2016年3月1日、防衛装備庁が発注する繊維製品の競争入札に関して、公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。当社はこの事実を厳粛に受け止め、検査に全面的に協力するとともに、コンプライアンスのさらなる強化に努めてまいります。

クラレグループリスク管理方針(2016年度)

基本方針

- (1) 社会の信任を裏切る違法、不適切な行為の防止を徹底する。
- (2) 社会・地域・顧客・協業先等の安全と健康を脅かす事故・災害(保安事故、労働災害、環境汚染、製品事故等)の防止を徹底する。
- (3) 事業・社会に深刻な影響を与える事象の発生時において、社会の信任、安全と健康を確保し、事業を継続または早期回復させるための対策に取り組む。この場合、社会の信任、安全と健康を、事業の継続または早期回復に優先させる。

年度課題

- (1) 法令違反リスクの再点検を行う
- (2) 自然災害に対するリスク軽減対応を進める
- (3) 原料ソースを含む川上リスクの見直しを行う
- (4) 品質問題への対応を強化する